

CipherLab

バーコードスキャナー1500/1500P/1502

設定リファレンスマニュアル

設定バーコード付記

Ver. JP1.00



本マニュアルは「CipherLab: 1500/1502 Barcode Scanner User Guide Ver.1.23」に基づいて作成しました。

Copyright © 2017 CIPHERLAB CO., LTD.

無断転用禁止

ソフトウェアには CIPHERLAB CO., LTD.の機密情報が含まれています。この情報は使用および開示制限を含めライセンス契約に従って提供されており、また著作権法により保護されています。ソフトウェアのリバースエンジニアリングは禁じられています。

製品開発は今後も継続的に行っており、この情報は事前の通知なしに変更されることがあります。本書に含まれる情報と知的所有権は CIPHERLAB とクライアント間で機密とされ、CIPHERLAB CO., LTD.に帰属する独占的財産と見なされます。文書に何らかの問題が見つかった場合、書面にて当社に報告してください。CIPHERLAB は、本文書に間違いがないことを保証しません。

本出版物のいかなる部分も、CIPHERLAB CO., LTD.の書面による事前の許可なしには、いかなる条件下でも、また電子的、機械的、写真複写、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、または転送を行うことができません。

製品のコンサルタント業務とサポートについては、地域の販売代理店にお問い合わせください。また、当社の Web サイトで詳細を見ることもできます。

CipherLab ロゴは、CIPHERLAB CO., LTD.の登録商標です。

すべてのブランド、製品・サービス、および商標名はそれぞれの登録名義人の資産です。

編集でこれらの名前を使用しているのは識別および所有者の利益を目的とするもので、侵害の意図はありません。

CIPHERLAB CO., LTD.

Website: <http://www.cipherlab.com>

目次

はじめに.....	1
サポートしているバーコードシンボル	1
クイックスタート.....	3
設定モードに入る	4
設定モードの終了.....	4
デフォルト設定.....	5
ユーザー設定をデフォルトとして保存	5
ユーザーデフォルトに戻す.....	5
システムデフォルトに戻す.....	5
セットアップバーコードを読み込む.....	6
パラメータの設定.....	6
現在の設定をリスト表示	12
ワンスキャンセットアップバーコードの作成.....	14
1D ワンスキャンバーコード	14
バーコードスキャナーを使う.....	15
1.1 電源 ON.....	16
1.2 転送バッファ	16
1.3 LED インジケータ	17
1.3.1 グッドリード LED.....	17
1.3.2 グッドリード LED 持続時間.....	17
1.4 ビープ音	18
1.4.1 ビープ音量.....	18
1.4.2 グッドリードビープ音	19
1.5 “NR”(Not READ)をホストに転送	20
1.6 スキャンモード.....	21
1.6.1 連続モード.....	22
1.6.2 テストモード.....	23
1.6.3 レーザーモード.....	23
1.6.4 自動 OFF モード.....	23
1.6.5 自動電源 OFF モード.....	24
1.6.6 交互モード.....	24
1.6.7 エイミングモード.....	25
1.6.5 マルチバーコードモード.....	25
1.7 スキャンタイムアウト.....	26
1.8 再読み取り間隔.....	27
1.9 読み取り冗長性(1D).....	28
1.10 UPC/EAN のアドオンセキュリティ.....	29

1.11	オートセンスモード (1500/1500P のみ)	30
1.11.1	1500 の場合	30
1.11.2	1500P の場合	30
1.11.3	周囲の明るさ	32
1.12	反転バーコード	33
1.13	有効な読取り領域	34
1.13.1	Positioning Window	34
1.13.2	ウインドウの調整	35
1.12	ケーブル自動判別	36
インターフェースの選択		37
2.1	キーボードウェッジ	38
2.1.1	キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する	39
2.1.2	キーボード設定	41
2.1.3	キャラクター間転送間隔	50
2.1.4	ファンクションコード間転送間隔	50
2.2	RS-232	51
2.2.1	RS-232 インターフェースをアクティブにする	51
2.2.2	ボーレート	51
2.2.3	データビット	52
2.2.4	パリティ	52
2.2.5	ストップビット	52
2.2.6	フロー制御	53
2.2.7	キャラクター間転送間隔	54
2.2.8	ファンクションコード間転送間隔	54
2.2.9	ACK/NAK タイムアウト	54
2.4	USB HID	56
2.3.1	USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する	56
2.3.2	キーボード設定	58
2.3.3	キャラクター間転送間隔	65
2.3.4	ファンクションコード間転送間隔	65
2.3.5	HID 文字転送モード	66
2.3.6	特殊キー	66
2.4	USB Virtual COM	67
2.4.1	USB Virtual COM をアクティブにする	67
2.4.2	ファンクションコード間転送間隔	67
2.4.3	ACK/NAK タイムアウト	68
2.5	USB VCOM_CDC	69
2.5.1	USB VCOM_CDC をアクティブにする	69
2.5.2	ファンクションコード間転送間隔	69
2.5.3	ACK/NAK タイムアウト	69
バーコードシンボルの設定		71
3.1	Codabar	72
3.1.1	セキュリティレベル	72

3.1.2	スタート/ストップ文字の転送	72
3.1.3	スタート/ストップパターン文字の選択	73
3.1.4	CLSI 変換	73
3.2	Code 25 – Industrial 25	74
3.2.1	スタート/ストップパターンの選択	74
3.2.2	チェックデジットを確認する	74
3.2.3	チェックデジットを転送する	75
3.2.4	コード長必要条件	75
3.3	Code 25 – Interleaved 25	76
3.3.1	スタート/ストップパターンの選択	76
3.3.2	チェックデジットを確認する	76
3.3.3	チェックデジットを転送する	77
3.3.4	コード長必要条件	77
3.4	Code 25 – Matrix 25	78
3.4.1	スタート/ストップパターンの選択	78
3.4.2	チェックデジットの確認	78
3.4.3	チェックデジットの転送	79
3.4.4	コード長必要条件	79
3.5	Code 39	80
3.5.1	スタート/ストップ文字の転送	80
3.5.2	チェックデジットの確認	80
3.5.3	チェックデジットの転送	80
3.5.4	標準/Full ASCII Code 39 のサポート	81
3.5.5	セキュリティレベル	81
3.5.6	アスタリスク (*)をデータの一部とする	81
3.6	Code 93	82
3.7	Code 128	82
3.7.1	セキュリティレベル	82
3.8	EAN-8	83
3.8.1	EAN-13 に変換	83
3.8.2	チェックデジットを転送する	84
3.8.3	変換フォーマット	84
3.9	EAN-13	85
3.9.1	ISBN に変換する	85
3.9.2	ISSN に変換する	86
3.9.3	チェックデジットを転送する	86
3.9.4	セキュリティレベル	86
3.9.5	EAN-13 Addon Modes	87
3.10	GS1-128 (EAN-128)	90
3.10.1	Code ID を転送する	90
3.10.2	フィールド区切り文字(GS 文字)	90
3.10.3	GS1 フォーマット	91
3.10.4	アプリケーション識別子	91
3.11	ISBT 128	92

3.11.1	ISBT 連結.....	92
3.12	MSI.....	93
3.12.1	チェックデジットを確認する.....	93
3.12.2	チェックデジットの転送	93
3.12.3	コード長必要条件	94
3.13	French Pharmacode.....	95
3.13.1	チェックデジットの転送	95
3.14	Italian Pharmacode	95
3.14.1	チェックデジットの転送	95
3.15	Plessey	96
3.15.1	UK Plessey に変換する.....	96
3.15.2	チェックデジットの転送	96
3.16	GS1 DataBar (RSS ファミリー).....	97
3.16.1	Code ID の選択.....	97
3.16.2	GS1 DataBar Omnidirectional (RSS-14).....	98
3.16.3	GS1 DataBar Expanded (RSS Expanded).....	99
3.16.4	GS1 DataBar Limited (RSS Limited)	100
3.16.5	フィールド区切り文字 (GS 文字).....	101
3.16.6	GS1 フォーマット.....	101
3.16.7	Application ID マーク	101
3.17	Telepen.....	102
3.17.1	AIM Telepen のサポート	102
3.18	UPC-A.....	103
3.18.1	EAN-13 へ変換.....	103
3.18.2	システム番号の転送	104
3.18.3	チェックデジットの転送	104
3.19	UPC-E.....	105
3.19.1	システムナンバーの選択	106
3.19.2	UPC-A へ変換	106
3.19.3	システムナンバーの転送	106
3.19.4	チェックデジットの転送	107
出力フォーマットの設定		109
4.1	大文字・小文字の区別	110
4.2	文字置換.....	111
4.2.1	文字置換セットの選択	112
4.2.2	文字置換用のシンボル体系(3 セットすべて).....	114
4.3	プレフィックス/サフィックスコード	121
4.4	Code ID	122
4.4.1	定義済み Code ID の選択.....	122
4.4.2	Code ID の変更.....	124
4.4.3	Code ID 設定の消去.....	126
4.5	長さコード (Length Code).....	127

4.6	マルチバーコードエディタ.....	132
4.6.1	バーコード連結の編集.....	132
4.6.2	バーコードの連結をアクティブにする.....	134
4.7	特定文字の削除.....	135
データ編集用のフォーマットを適用する.....		137
5.1	編集フォーマットをアクティブにする.....	138
5.1.1	編集フォーマットをアクティブにする.....	138
5.1.2	排他的データ編集.....	139
5.2	編集フォーマット設定方法.....	140
5.2.1	編集フォーマットの選択.....	140
5.2.2	編集フォーマットをデフォルト値に戻す.....	141
5.3	フォーマットの設定 - データ基準の定義.....	142
5.3.1	適用コードタイプ.....	142
5.3.2	データ長.....	149
5.3.3	一致する文字列と位置.....	149
5.4	フォーマットを設定する - データフィールドの定義.....	150
5.4.1	開始位置.....	150
5.4.2	フィールド調整.....	150
5.4.3	フィールド総数.....	151
5.4.4	フィールド設定.....	152
5.4.5	休止フィールド設定.....	159
5.5	フォーマットの設定 - 転送シーケンスの定義.....	160
5.6	プログラミング例.....	163
5.6.1	例1.....	163
5.6.2	例2.....	164
ファームウェアのアップグレード.....		167
	RS-232 を使う.....	167
	USB Virtual COM を使う.....	169
ホストシリアルコマンド.....		171
	シリアルコマンド.....	171
	例.....	172
キーボードウエッジ.....		175
	キータイプ、ステータス.....	176
	キータイプ.....	176
	キーステータス.....	176
	例.....	177
N 進法.....		178
	10 進法.....	178
	16 進法.....	180

ASCII Table182

はじめに

サポートしているバーコードシンボル			
サポートしているバーコードシンボル		デフォルト	
Codabar		有効	
Code 93		有効	
MSI			無効
Plessey			無効
Telepen			無効
Code 128	Code 128	有効	
	GS1-128 (EAN-128)	有効	
	ISBT 128 (Ver.1.10 以降有効)	有効	
Code 2 of 5	Industrial 25	有効	
	Interleaved 25	有効	
	Matrix 25		無効
Code 3 of 9	Code 39	有効	
	Italian Pharmacode		無効
	French Pharmacode		無効
EAN/UPC	EAN-8	有効	
	EAN-8 アドオン 2		無効
	EAN-8 アドオン 5		無効
	EAN-13	有効	
	EAN-13 & UPC-A アドオン 2		無効
	EAN-13 & UPC-A アドオン 5		無効
	ISBN		無効
	UPC-E0	有効	
UPC-E1		無効	



	UPC-E アドオン 2		無効
	UPC-E アドオン 5		無効
	UPC-A	有効	
GS1 DataBar (RSS)	GS1 DataBar Omnidirectional (RSS-14)		無効
	GS1 DataBar Truncated		無効
	GS1 DataBar Stacked		無効
	GS1 DataBar Stacked Omnidirectional		無効
	GS1 DataBar Limited (RSS Limited)		無効
	GS1 DataBar Expanded (RSS Expanded)		無効
	GS1 DataBar Expanded Stacked		無効

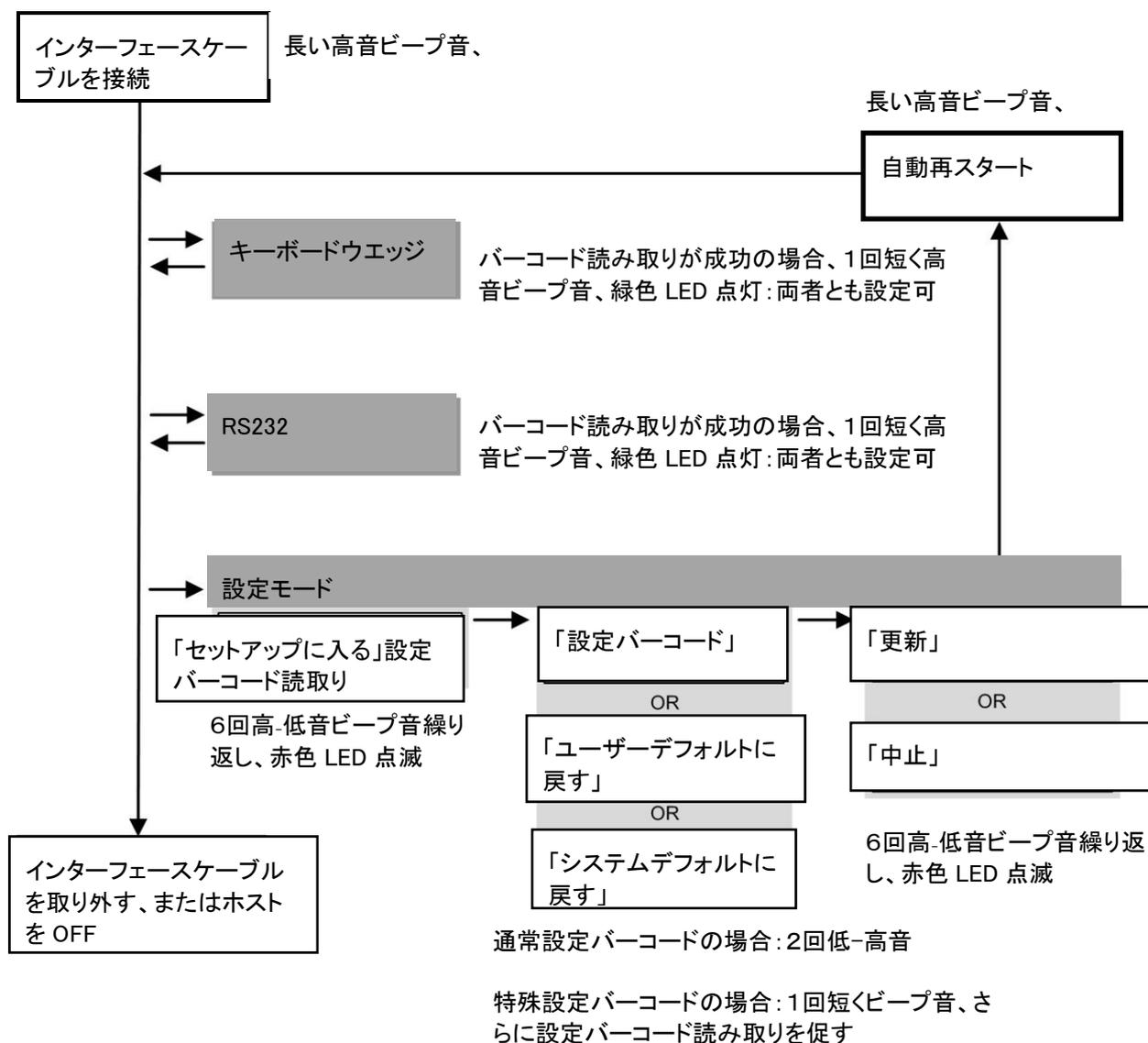


クイックスタート

スキャナーの設定は本マニュアル記載のセットアップバーコードを読むことで、または *ScanMaster* ソフトウェアを通して行うことができます。

本セクションでは、セットアップバーコードを読むことでスキャナー設定する手順について説明し、デモンストレーションの例をいくつか紹介しています。

注記: RS-232 をインターフェースとして選択している場合には、ホストはシリアルコマンドをダイレクトにスキャナーに転送して設定できます。例えば *HyperTerminal.exe* を実行して設定コマンドを転送できます。 [付表 2 ホストシリアルコマンド](#) を参照。



更新

設定モードに入る

スキャナーが設定モードに入るには、スキャナーに「設定モードに入る」バーコードを読み取らせませす。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての偶数ページの下部にあります。

- ▶ スキャナーは 6 回のピープ音を返し、LED インジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。

設定モードに入る



設定モードの終了

スキャナーが設定を保存し、設定モードを終了するためには、スキャナーに「更新」バーコードを読み取らせませす。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての奇数ページの下部にあります。変更を保存せずに設定モードを終了したい場合、「中止」バーコードを読み取らせてください。

- ▶ 「セットアップに入る」バーコードを読み取るように、スキャナーは 6 回のピープ音を返し、LED インジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し、数秒待つと、スキャナーが自動的に再起動します。

更新



中止



セットアップに入る

デフォルト設定

ユーザー設定をデフォルトとして保存

ユーザーデフォルトとしてカスタマイズされた設定を保存するには、スキャナーに「ユーザーデフォルトとして保存」バーコードを読み取らせます。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「更新」バーコードを読み取った後、現在の設定はユーザーデフォルトとして保存されます

ユーザーデフォルトとして保存



ユーザーデフォルトに戻す

先に保存したユーザーデフォルトに戻すには、スキャナーに「ユーザーデフォルトに戻す」バーコードを読み取らせる必要があります。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはカスタマイズされた値に戻ります。

ユーザーデフォルトに戻す



システムデフォルトに戻す

工場出荷時のデフォルトに戻すには、スキャナーに「システムデフォルトに戻す」バーコードを読み取らせます。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはデフォルト値に戻ります。

システムデフォルトに戻す



注記: システムデフォルト値は各設定の欄に「アスタリスク “*”」で付記されています。



更新

セットアップバーコードを読み込む

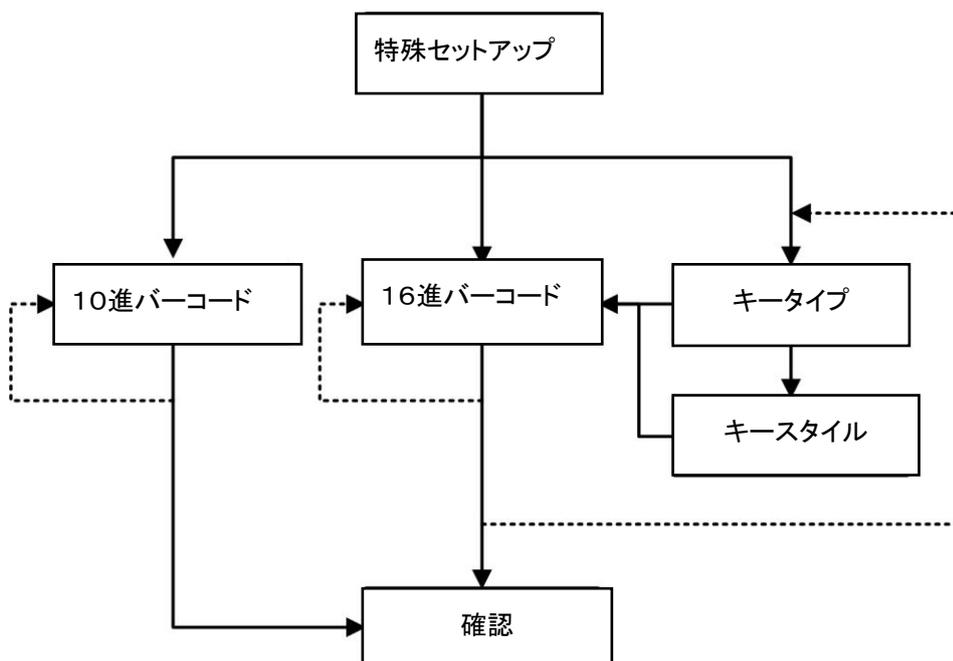
パラメータの設定

ほとんどのスキャナーパラメータの場合、新しい値に設定するには1回の読み取りだけで可能です。それぞれのパラメータが正常に設定されると、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

しかし、他のある特殊パラメータの場合、設定を完了するにはさらに複数の読み取りが必要となる場合があります。この場合、スキャナーは短いビープ音を返し、さらに多くのセットアップバーコードを読み取る必要があることを示します。これらの特殊パラメータでは以下の、1つ以上のセットアップバーコードを読み取る必要があります。

- ▶ 数字バーコード、例えば、キーボードタイプ、キャラクター間転送間隔、長さの必要条件
- ▶ 16進法のバーコード、例えば、プリフィックス、サフィックスなどの文字列
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

これらの特殊パラメータの設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返し入力値が確認されたことを示します。



以下の例は、後でユーザーデフォルト戻せるように、「ユーザーデフォルト」として設定を保存する方法を示しています。

ステップ	作業	正しく設定されたときのフィールド
1	スキャナーの電源を ON にする...	スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。
2	設定モードに入る...	スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅します。
	<p>Ent セットアップに入る</p> 	
3	セットアップバーコードを読む... 例:	通常のセットアップバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。
	<p>+i* Industrial25を有効にする</p>  <p>100307</p> <p>Save as ユーザーデフォルトして保存</p>  <p>109986</p>	
4	設定モードを終了する...	「設定モードに入る」と同じです。
	<p>更新</p>  <p>109999</p> <p>または</p> <p>中止</p>  <p>109998</p>	
5	スキャナーは自動的に再起動します...	「スキャナーの電源を ON にする」と同じ
*	設定エラーが発生したとき...	スキャナーは 1 回の長いビープ音(低いトーン)を返します。



更新

以下の例は、数値パラメータの設定方法を示しています。

ステップ 作業

正しく設定されたときのフィードバック

1 スキャナーの電源を ON にする...

スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。

2 設定モードに入る...

スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅を開始します。

1 セットアップに入る



3 セットアップバーコードを読む...

通常のセットアップバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

例:

通常のセットアップ
バーコード

In.* Industrial25 を有効にする



100309

通常のセットアップバ
ーコード

1 固定長を有効にする



100604



Max. Len 最大長(*126)または固定長 1

特殊なセットアップ
バーコード



スキャナーは「最大長」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1回の短いビープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。

10進値バーコード



「10進値」バーコードを読み取ります。



4 設定モードを終了する...

入力値が確認されると、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「設定モードに入る」と同じです。



5 スキャナーは自動的に再起動します...

「スキャナーの電源をONにする」と同じ



以下の例は、stringパラメータの設定方法を示しています。

ステップ アクション

正しく設定されたときのユーザーフィードバック

1 スキャナーの電源を ON にする...

スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。

2 設定モードに入る...

スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅を開始します。

Enter セットアップに入る



3 セットアップバーコードを読む...

スキャナーは「プリフィックスコード」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1 回の短いビープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。

例:

特殊なセットアップ
バーコード

Prefix プリフィックスの設定



Normal 通常



「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

Add Left A 左 Alt の追加



▶ 付表 3 を参照してください



セットアップに入る

16 進値バーコード



目的の文字列については、「16 進値」バーコードを読み取ります。例えば、頭に「+」の文字を置くスキャナーの場合、「2」と「B」を読み取ります。

▶ 付表 4 「16 進値」を参照してください



入力値が確認されると、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。



4 設定モードを終了する...

「設定モードに入る」と同じです。

更新



中止



または

5 スキャナーは自動的に再起動します...

「スキャナーの電源を ON にする」と同じ



更新

現在の設定をリスト表示

スキャナーのすべてのパラメータの現在の設定は、ユーザー検査のためにホストコンピュータに転送できます。これらのリストには、以下に示すページが含まれます。スキャナーに「ページをリスト表示」バーコードを読み取らせることで関心のあるページを選択できます。スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返し、選択したページを直ちにホストに転送します

ファームウェアバージョン、シリアル番号、インターフェース、ブザー、その他のスキャナーパラメータに関するリスト設定

リストページ 1



プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(1/2)に関するリスト設定

リストページ 2



プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(2/2)に関するリスト設定

リストページ 3



Code ID に関するリスト設定

リストページ 4



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系(1/2)

リストページ 5



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系(2/2)

リストページ 6



シンボル体系に関するリスト設定(1/3)

リストページ 7



シンボル体系に関するリスト設定(2/3)

リストページ 8



シンボル体系に関するリスト設定(3/3)

リストページ 9



(予約済み)

リストページ 10



109959

編集フォーマットに関するリスト設定 1

(1/2)

リストページ 11



109937

編集フォーマットに関するリスト設定 1

(2/2)

リストページ 12



109938



更新

ワンスキャンセットアップバーコードの作成

スキャナーの設定を容易にするために、ワンスキャンセットアップバーコードを作成して使用することができます。

1D ワンスキャンバーコード

ワンスキャンセットアップバーコードの要件:

- ▶ 「#@」文字のプリフィックス
- ▶ 「#」文字のプリフィックス

- 1) 例えば、コマンドパラメータ「109952」を有効にするには、セットアップバーコードを 3 回スキャナーに読み取らせる必要があります。

セットアップに入る



リストページ 3



109952

更新



109999

しかし、以下のように 1 回の読み取りだけで可能となります

109952 のワンスキャンセットアップバーコード



#@109952#

注記: ワンスキャンセットアップバーコードを読み取ると、スキャナーは自動的に再起動します。スキャナーで長いビープ音が鳴り、LED が短く ON-OFF を繰り返します。



セットアップに入る

バーコードスキャナーを使う

本章の目次

1.1	電源 ON	16
1.2	転送バッファ	16
1.3	LED	17
1.4	ビーブ音	18
1.5	“NR”(Not READ)をホストに転送	20
1.6	スキャンモード	21
1.7	スキャンタイムアウト	26
1.8	再読み取り間の間隔	27
1.9	読み取り冗長性(1D)	28
1.10	UPC/EAN のアドオンセキュリティー	29
1.11	オートセンスモード	30
1.14	反転バーコード	33
	エラー! 参照元が見つかりません。有効なスキャン領域	34
	エラー! 参照元が見つかりません。	36



1.1 電源 ON

インターフェースケーブルを PC に接続。

- ▶ RS-232 ケーブルの場合は電源ケーブルも接続します。
- ▶ スキャナーが 1 回長いビープ音 (高音) を発し LED が赤く点灯しすぐに消灯します。
- ▶
- ▶

1.2 転送バッファ

スキャナーは読み取ったデータを転送バッファ (SRAM) 経由でホストコンピューターに 1 つずつ転送します。正しく読み取ったときスキャナーは 1 回短くビープ音 (高音) で応答し、LED は緑色に点灯しすぐに消灯します。しかし、例えばボーレートが低い、あるいはハンドシェイクでデータを待っている時などはデータを直ちに受信できない場合があります。そのような場合、スキャナーは 10KB の転送バッファにデータを蓄積します。バッファがフルになったときはスキャナーは長いビープ音 (低音) と LED が短く点灯して警告を発します。

注記: 4KB の転送バッファには、例えば EAN-13 データであれば 256 個のデータを蓄積できます (10KB メモリー内蔵の 1500P の場合は 640 個のデータを蓄積可能)。ただし、RS-232 ケーブルの電源が外されたとき、あるいは他のインターフェースケーブルが外されたとき蓄積されたデータは消去されます。



1.3 LED インジケーター

スキャナー上部の三色 LED は、ユーザーフィードバックを示します。例えば、電源が ON になったり転送バッファが空になったりすると直ちに、LED は緑色に点灯して消えます。ピープ音の違いを見分けることができます。スキャナーの電源が ON になっているとき高音の長いピープ音を返し、転送バッファがフルになると低音の長いピープ音を返します。

LED		意味
赤色、点灯のち 消灯	---	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 電源 ON, 長い高音ピープ音、LED1 秒間点灯 ▶ 転送バッファフル、低音の短いピープ音 ▶ RS-232/USB Virtual COM 接続失敗, 高音-低音ピープ音
---	緑色、点灯のち 消灯	グッドリード、高音ピープ音、ピッチと時間は設定可
赤色、点滅	---	設定モード (On/Off 比 0.5 s: 0.5 s)

1.3.1 グッドリード LED



1.3.2 グッドリード LED 持続時間

デフォルトで、グッドリード LED は 40 ミリ秒間 ON になっています。10 ミリ秒の単位で、1~254 の値を指定します。



- 1) 上のバーコードを読み取って、グッドリード LED が OFF になるまでの時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、LED で「1」と「5」を読み取ると、150 ミリ秒後に OFF になります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

1.4 ビープ音

ビープ音	意味
1回の長いビープ音、高音	電源 ON、LED が赤で ON(1 秒間)、その後すぐに OFF
1回の短いビープ音、高音 ▶ プログラム可能、デフォルトは 4 KHz	グッドリード、LED が緑色に短く ON-OFF
6回の短いビープ音 ▶ 高-低音を 3 回繰り返す	▶ 設定モードに入ります、LED が赤色に点滅 ▶ 設定モードを終了します
2回の短いビープ音、低-高音	セットアップバーコードが正常に読み取られました
2回の短いビープ音、高-低音	▶ RS232 接続に失敗、赤色 LED が短く ON-OFF
1回の短いビープ音、高音	さらに多くの設定バーコード読み取りが必要です
1回の短いビープ音、低音	マルチバーコード編集で、「出力シーケンス」の設定を完了するためには、さらに設定バーコードの読み取りが必要です。 緑色 LED が短く ON-OFF
1回の長いビープ音、低音	▶ 転送バッファがフル、LED が赤色に短く ON-OFF ▶ 設定エラー (間違ったバーコード…)
2回の長いビープ音、高-低音	▶ マルチバーコードモード : メモリモード - バッファメモリがフル

1.4.1 ビープ音量

消音	
	101009
最小音量	
	101010
中間音量	
	101011
*最大音量	
	101012



1.4.2 ゲッドリードビープ音

周波数

8 kHz



*4 kHz



2 kHz



1 kHz



時間

*最短



短



長



最長



更新

1.5 “NR”(NOT READ)をホストに転送

出力インターフェースでキーボードウェッジまたは RS-232 が選択されているときのみ、この機能は有効です。

機種	適用されるインターフェース
1500/1500WA/1502	キーボードウェッジ RS-232
1500P	キーボードウェッジ RS-232 USB HID USB VCOM USB VCOM_CDC

有効



*無効



1.6 スキャンモード

▶ マルチバーコードモードの時以外、スキャナーは最大 7KB のデータまで格納できます。

スキャンモード	スキャンの開始				スキャンの終了			
	常にデ コードす る	トリガー を1回押 す	トリガー を保留 する	トリガー を2回押 す	トリガー を解除 する	トリガー を1回押 す	バーコ ードが読 み込ま れる	タイムア ウト
連続モード	✓							
テストモード	✓							
レーザーモード			✓		✓		✓	✓
自動 OFF モード		✓					✓	✓
自動電源 OFF モード:		✓						✓
交互モード		✓				✓		
エイミングモード				✓			✓	✓
マルチバーコードモード			✓		✓			

注記: デフォルトはレーザーモードです



1.6.1 連続モード

スキャナーは常に読取り状態です。

読取りに成功した場合、スキャナーをバーコードから外します。スキャンタイムアウト時間が経過するまでスキャンを続けます。

同じバーコードを繰り返し読み取るためには、一旦スキャナーをバーコードから外し、再度スキャナーで読み込みます。



スキャン間隔

読取りの時間間隔を設定します。



1.6.2 テストモード

スキャナーは常に読取り状態です。

同じバーコードを、スキャナーから外すことなく読み取ります。これは試験目的に有効です



1.6.3 レーザーモード

トリガーを押し下げると、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは(1) バーコードがデコードされる、(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過する、または(3) トリガーを離すときです。

注記:「[スキャンタイムアウト](#)」を参照.下さい



1.6.4 自動 OFF モード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。

注記: 「[スキャンタイムアウト](#)」を参照してください。



更新

1.6.5 自動電源 OFF モード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、前もって設定されたタイムアウト時間が経過した、またデコードが成功するたびに前もって設定されたタイムアウト時間が再カウントされる時です。

注記: 「[1.8 再読み取り間の間隔](#)」および「[スキャンタイムアウト](#)」を参照してください。

自動電源 OFF モード



100202

1.6.6 交互モード

トリガーを押すとスキャンを開始します。

再度トリガーを押すとスキャンを中止します。

交互モード



100203



セットアップに入る

1.6.7 エイミングモード

トリガーが押されるとスキャナーはバーコードに照準を合わせ、それから 1 秒以内にトリガーが押されるとスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。

エイミングモード



エイミングタイムアウト

エイミング時間を 1～15 秒に設定できます。デフォルトで、スキャナーのタイムアウトは 1 秒に設定されています。

エイミングタイムアウト
(*1)



1. 上のバーコードを読み取って、エイミングが終わるまでの時間を指定します。(デフォルトでは、1 秒に設定されています。)
2. ページで「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 10 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

1.6.5 マルチバーコードモード

- ▶ トリガーを押し下げている間スキャナーはスキャンし続け、一度に 1 つのユニークなバーコードだけでなく、複数のユニークバーコードもデコード可能です。一連のユニークなバーコードをデコードしている間、同一のバーコードが 2 回デコードされると、2 回目のデコードは無視されます。
- ▶ 複数のユニークなバーコードをデコードする場合、最大容量は 10 KB です。データ量が 10 KB を超えると、マルチバーコードモードは無効になります
- ▶ トリガーを離すまで、スキャンは停止しません。

マルチバーコードモード



注記: マルチバーコードモードは「[マルチバーコード編集](#)」と関係がありません



更新

1.7 スキャンタイムアウト

スキャンモードが次のいずれかのモードに設定されているとき、スキャン時間(1~254 秒、0= 無効)を指定します

- ▶ レーザーモード
- ▶ 自動 OFF モード
- ▶ 自動電源 OFF モード
- ▶ エイミングモード

0~254 秒後スキャナタイムアウト (*10)



上のバーコードを読み取って、スキャンエンジンがタイムアウトになるまでの時間を指定します。

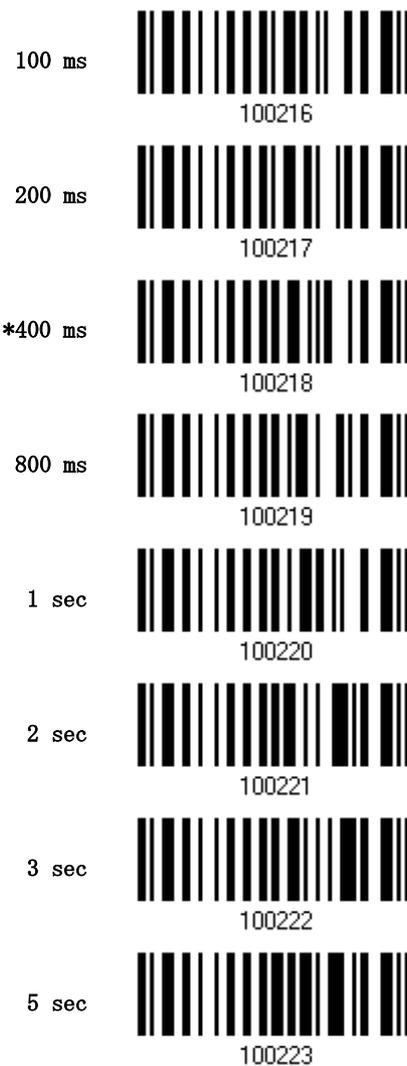
「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「5」を読み取ると、スキャナーは15秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。

この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



1.8 再読み取り間の間隔

- ▶ これは「ブロッキングタイム」とも呼ばれ、スキャンモードが次のいずれかに設定されているとき、スキャナーが同じバーコードを間違っ2回読み取るのを防ぐために使用されます。
- ▶ 連続モード
- ▶ 自動電源 OFF モード:
- ▶ 交互モード



1.9 読み取り冗長性(1D)

「冗長性なし」が選択されている場合、デコードが1回成功すると読み取りが有効になります。

「3回」を選択すると、同一のバーコードを4回読み取り成功する必要があります。読み取りセキュリティが高いほど(つまり、ユーザーが選択する冗長性が高いほど)、読み取り速度は遅くなります。

選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなるというのは明らかです。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。



1.10 UPC/EAN のアドオンセキュリティ

アドオンの有無を問わず、UPC/EAN バーコードをデコードできます。読み取り冗長性(2~16 回、デフォルトは 10 に設定)により、転送前に UPC/EAN バーコードをデコードする回数を変更できます。選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなります。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。

注記: この設定を有効にするには、UPC/EAN アドオン 2 と アドオン 5 を個別に有効にする必要があります。

アドオンセキュリティ
レベル (*0~30)



上のバーコードを読み取って UPC/EAN バーコードの読み取り冗長性を指定してください。

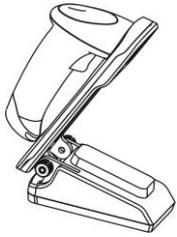
「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「2」を読み取ると、スキャナーは 12 回バーコードを再び読み取ります。

この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります



更新

1.11 オートセンスモード (1500/1500P のみ)



1.11.1 1500 の場合

1500 の場合、オートセンススタンドにセットされている時有効です。このモードを有効にするとスキャンモードはレーザーモードになります。しかし、このモードは本来のレーザーモードとは若干異なります。



注記: オートセンスモードを有効にするとスキャナーはレーザーモードとなります。このモードを中止するときはスキャナーをスタンドから取り外すか、または上記の設定バーコードを読んでオートセンスモードを無効とします。通常のレーザーモードに戻ります。他のスキャンモードに設定するときはそれぞれのスキャンモードに設定します。

1.11.2 1500P の場合

1500P の場合は、オートセンスモードはスキャナーがレーザーモードに設定されている時のみ有効となります。オートセンススタンドにセットされている間は、常に読み取り待機状態です。

このモードを中止するときは、スキャナーをスタンドから取り外します。



読み取るタイミングを次ページのように設定できます。



「バーコード」: 対象がバーコードであることを認識したとき

「動き」: 対象が動いた時



さらにスキャナーがスタンドにセットされていて、上記「動き」に設定されている時、その感度を設定することが出来ます。感度は0～7(デフォルトは4)で数字が大きくなるに従い感度は上がります。



上のバーコードを読み取ってバーコードの読み取り感度を指定してください。

「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」を読み取ると、スキャナー感度は1に設定されます。

この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります



更新

1.11.3 周囲の明るさ

周囲の明るさが暗い場合、下記により「高感度」に設定すると読取り性能は向上します。



注記: もし周囲の明るさが 100 lux 以下であるような場合は、別光源を準備するか、あるいは連続モードに設定することをお勧めします。



1.12 反転バーコード

白黒反転したバーコードの読取りを設定します



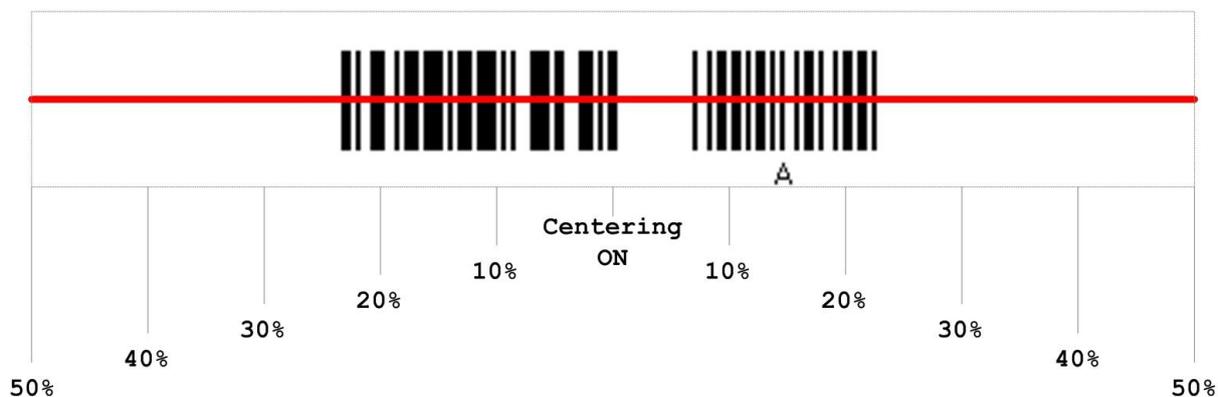
更新

1.13 有効な読取り領域

デフォルトでは、有効な読取り領域はスキャナーのスキャン領域と同じです。しかしいくつかのバーコードが近接している様な場合、その領域を制限することが出来ます。下記で設定し領域のみを読み取ります。

「センタリング ON」を設定し、パーセンテージで領域を制限します。

例えば「左10%」と「右30%」とを設定すると下図のバーコード「A」のみを読み取ります。



1.13.1 POSITIONING WINDOW



1.13.2 ウィンドウの調整

左半分のパーセンテージ



右半分のパーセンテージ



更新



1.14 ケーブル自動判別

同梱のインターフェースケーブルをスキャナーに接続するとスキャナーはそのインターフェースを自動で判別します。

Cable 自動判別	デフォルト
キーボードウエッジ	キーボードタイプ PCAT (US)
RS-232	115200 bps, 8 bits, No parity, 1 stop bit
USB	キーボードタイプ USB HID および PCAT (US)

注記: “USB Virtual COM” が必要な場合は該当する設定バーコードを読む必要があります。



インターフェースの選択

1) スキャナーと PC を付属のインターフェースケーブルで接続すると、スキャナーはインターフェースの種類を自動判別します。

- ▶ RS-232 ケーブルの場合は電源に接続して下さい。
- ▶ USB cable の場合、デフォルトでは USB HID に設定されています。

“USB Virtual COM”を望まれる場合はセットアップバーコードを読み取って下さい。

ケーブル自動判別	デフォルト
キーボードウエッジ	キーボードタイプ PCAT (US)
RS-232	115200 bps, 8 bits, No parity, 1 stop bit
USB	キーボードタイプ USB HID および PCAT (US)

注記: ケーブルに “Cable Detection Supported” というラベルが貼られていることを確認下さい。

2) まず“Enter Setup セットアップに入る”バーコードを読み込みます。

3) 該当するインターフェースの設定バーコードを読み込みます。

USB HID ケーブル(part #307)をお使いの場合は、「2.1 [キーボードウエッジ](#)」を参照下さい。

USB Virtual COM ケーブル(part # 308)をお使いの場合は「2.2 [RS232](#)」を参照下さい

IBM POS 4683/4694 ケーブル(part # 346)をお使いの場合は「2.1 [キーボードウエッジ](#)」を参照下さい

4) 引き続き関連する設定バーコードを読み込みます。

5) 最後に “Update 更新”バーコードを読み込んで設定を終了します。

注記; “Enter Setup セットアップに入る”、“Update 更新”バーコードは各ページの下端に交互に印刷されています。



インターフェースケーブルを外す場合は、裏面の小さな穴に適当なピンを強く刺し込んで、ケーブルを引き抜きます。



本章の目次

2.1 キーボードウエッジ	38
2.2 RS-232.....	51
2.3 USB HID.....	56
2.4 USB VCOM.....	67
2.5 USB VCOM_CDC.....	69

2.1 キーボードウエッジ

Y ケーブルスキャナーを PC のキーボード入力端子に接続。スキャンされたデータはキーボードから入力されたデータと同様にホストに転送されます。

キーボードウエッジの設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
アルファベットレイアウト	通常
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット転送	大文字と小文字を区別する
数字転送	テンキー
Alt キー	なし
ノート PC のサポート	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)



2.1.1 キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する

キーボードウェッジインターフェースがアクティブになっている場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります

キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する...



- 1) 上のバーコードを読み取って、キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、以下の表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります

キーボードタイプ

デフォルトで、キーボードタイプは PCAT (US) に設定されています。次のキーボードタイプがサポートされます

番号	キーボードタイプ	番号	キーボードタイプ
1	PCAT (US)	18	PS55 001-3
2	PCAT (フランス語)	19	PS55 001-8A
3	PCAT (ドイツ語)	20	PS55 002-1, 003-1
4	PCAT (イタリア語)	21	PS55 002-81, 003-81
5	PCAT (スウェーデン語)	22	PS55 002-2, 003-2
6	PCAT (ノルウェー語)	23	PS55 002-82, 003-82
7	PCAT (UK)	24	PS55 002-3, 003-3
8	PCAT (ベルギー)	25	PS55 002-8A, 003-8A
9	PCAT (スペイン語)	26	IBM 3477 Type 4 (日本語)
10	PCAT (ポルトガル語)	27	PS2-30
11	PS55 A01-1	28	IBM 34XX/319X, Memorex Telex 122 キー



12	PS55 A01-2 (日本語)	29	ユーザー定義の表
13	PS55 A01-3	30	PCAT (トルコ語)
14	PS55 001-1	31	PCAT (ハンガリー語)
15	PS55 001-81	32	PCAT (スイスドイツ語)
16	PS55 001-2	33	PCAT (オランダ語)
17	PS55 001-82		





2.1.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット転送
- ▶ 数字転送
- ▶ ALT キー
- ▶ ノート PC のサポート

アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を転送しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。



注記: 選択したキーボードタイプが PCAT (US)などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。



US Keyboard Style - ノーマル

QWERTY レイアウト。一般的に西洋諸国で使用されています。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

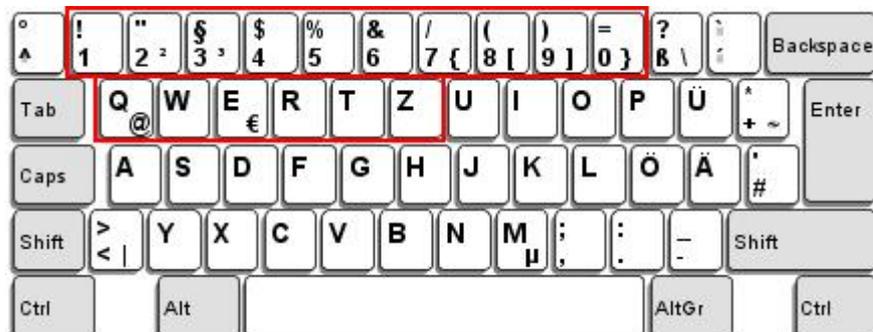
French Keyboard Style - AZERTY



- ▶ 下方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「上方の段」を選択します。



German Keyboard Layout – QWERTZ



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。



数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。スキャナーは、この設定に従って調整を行います。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
下方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
上方の段	AZERTY キーボードの場合

*ノーマル



上方の段



下方の段



注記: この設定は、特定のキーボードタイプ(言語)のサポートが使用できないが必須であるとき、アルファベットレイアウト、たぶん文字置換設定と共に使用することを意図されたものです



キャップスロックタイプと設定

正しい大文字・小文字でアルファベットを転送するには、スキャナーがキーボードのキャップスロックのステータスを知る必要があります。設定を間違えると、転送されるアルファベットの大文字・小文字が反対になります

キャップロックタイプ	説明
ノーマル	通常タイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

*ノーマル



100042

シフトロック



100045

キャップスロック



100044

キャップスロック状態	説明
キャップスロック OFF	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが OFF であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャップスロック ON	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが ON であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャップスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが転送される前のキーボードのキャップスロックのステータスを自動的に検出し、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。

自動検出



100054



更新

キャップスロック ON



100053

*キャップスロック OFF



100052

アルファベット転送

デフォルトで、アルファベット転送は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャップスロックのステータス、およびキャップスロック設定に従って転送されます。キーボードのキャプチャ1ロックのステータスのみに従ってアルファベットを転送するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。.

大文字小文字を無視



100051

*大文字と小文字を区別
する



100050





1. 出力フォーマットの大文字と小文字を区別する

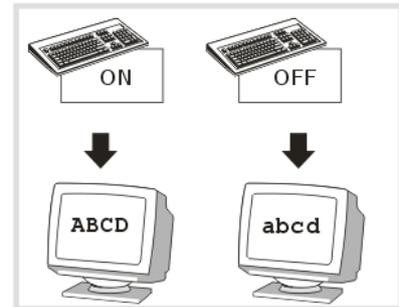
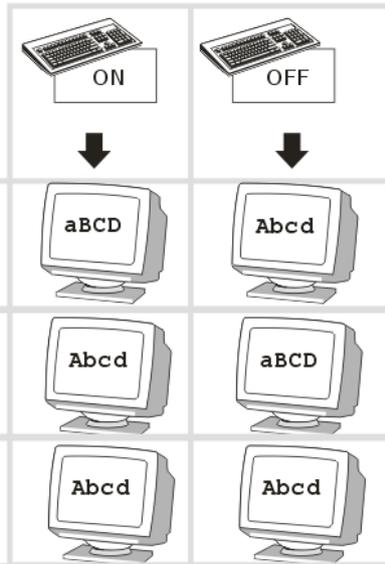


2. キーボードウエッジとHID アルファベット転送

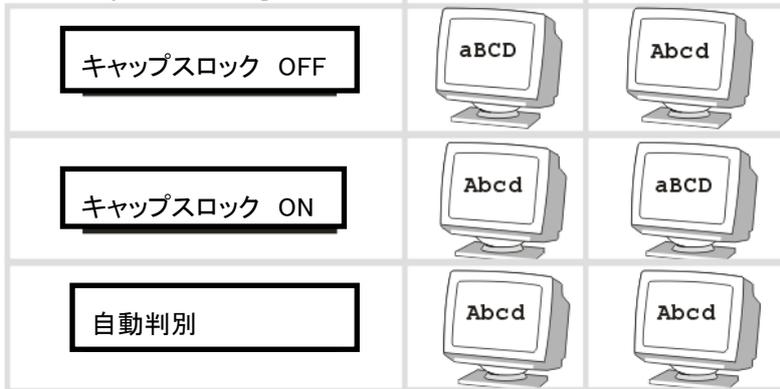


3a. キャップスロック ON/OFF チェック

3b. キャップスロック ON/OFF チェック



4. キャップスロック設定チェック



数字転送

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の転送に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。



注記: 「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。



ALT キー

デフォルトで、ALT キーは無効になっています。特定のキーボード文字の代替キーコードをエミュレートするのを許可するには、[はい]を選択します。例えば、[Alt] + [065]は使用しているキーボードタイプにかかわらず、Aの文字をホストに転送します。

はい



*いいえ



ノート PC のサポート

デフォルトで、ノート PC のサポートは無効になっています。相互連結される外部キーボードのないノート PC にウエッジケーブルを接続する場合、この機能を有効にすることを推奨します。

有効



*無効



更新

2.1.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔
... (*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.1.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード間
転送間隔(*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



2.2 RS-232

RS-232 ケーブルを使用して PC のシリアルポートに接続し、電源供給コードを差し込みます。関連する RS-232 パラメータは、コンピュータで設定されたパラメータに適合する必要があります。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータのシリアルポートに転送されます。

RS-232 設定	デフォルト
ボーレート、データビット、パリティ、ストップビット	115200 bps、8 ビット、パリティなし、1 ストップビット
フロー制御	なし
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)
ACK/NAK タイムアウト	0
ACK/NAK ビープ音	無効

2.2.1 RS-232 インターフェースをアクティブにする

RS-232 インターフェース
をアクティブにする



2.2.2 ボーレート

*115200 bps



57600 bps



38400 bps



19200 bps



9600 bps



更新

4800 bps	 100100
2400 bps	 100085
1200 bps	 100086
600 bps	 100087

2.2.3 データビット

*8 bits	 100093
7 bits	 100092

2.2.4 パリティ

*なし	 100088
偶数	 100090
奇数	 100091

2.2.5 ストップビット

2 stop bits	 100099
-------------	---



セットアップに入る

*1 stop bit



2.2.6 フロー制御

デフォルトではフロー制御「なし」です。

オプション	説明
なし	フロー制御「なし」
スキャナーレディ	電源が ON になると、スキャナーは RTS 信号をアクティブにします。それぞれの Good Read (グッドリード)の後、スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは転送されません。
データレディ	それぞれの Good Read の後、RTS 信号がアクティブにされます。スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは転送されません。
反転したデータレディ	RTS 信号レベルが反転していることを除き、データレディフロー制御と同じように機能します。

*なし



スキャナーレディ



データレディ



反転データレディ



更新

2.2.7 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔
... (*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.2.8 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード間
転送間隔(*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.2.9 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後さらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

(*0~99)後の ACK/NAK
タイムアウト



上のバーコードを読み、スキャナーがデータを転送しホストからの応答を待つ時間を指定します。

「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。

この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



ACK/NAK エラービープ音

有効



100015

*無効



100014



2.3 USB HID

USB HID の場合、USB ケーブルを使用してスキャナーを PC の USB ポートに接続します。コンピュータでテキストエディタを実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに転送されます。

HID 設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット転送	大文字と小文字を区別する
数字転送	英数字キーパッド
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)

2.3.1 USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する

USB HID インターフェイスがアクティブの時、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります。

USB HID をアクティブにし、
キーボードタイプを
選択する



- 1) 上のバーコードを読み取って、USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、次ページの表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



USB HID

デフォルトで、キーボードタイプは PCAT (US) に設定されています。次のキーボードタイプがサポートされています

番号	キーボードタイプ	番号	キーボードタイプ
64	PCAT (US)	72	PCAT (スペイン語)
65	PCAT (フランス語)	73	PCAT (ポルトガル語)
66	PCAT (ドイツ語)	74	PS55 A01-2 (日本語)
67	PCAT (イタリア語)	75	ユーザー定義の表
68	PCAT (スウェーデン語)	76	PCAT (トルコ語)
69	PCAT (ノルウェー語)	77	PCAT (ハンガリー語)
70	PCAT (UK)	78	PCAT (スイスドイツ語)
71	PCAT (Belgium)	79	PCAT (Danish)



2.3.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット転送
- ▶ 数字転送

アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を転送しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。



注記: 選択したキーボードタイプが PCAT (US)などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。



US Keyboard Style - ノーマル

QWERTY レイアウト。一般的に西洋諸国で使用されています。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

French Keyboard Style - AZERTY



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。



German Keyboard Layout – QWERTZ



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。スキャナーは、この設定に従って調整を行います。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
下方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
上方の段	AZERTY キーボードの場合

*ノーマル



100046

上方の段



100049

下方の段



100048

注記: この設定は、特定のキーボードタイプ(言語)のサポートが使用できないが必須であるとき、文字置換設定と共に使用されます。



セットアップに入る

キャップスロックタイプと設定

正しい大文字・小文字でアルファベットを転送するには、スキャナーがキーボードのキャップスロックのステータスを知る必要があります。設定を間違えると、転送されるアルファベットの大文字・小文字が反対になります。

キャップスロックタイプ	説明
ノーマル	ノーマルタイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

*ノーマル



100042

シフトロック



100045

キャップスロック



100044

キャップスロック状態	説明
キャップスロック OFF	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが OFF であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャップスロック ON	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが ON であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャップスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが転送される前のキーボードのキャップスロックのステータスを自動的に検出し、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。

自動検出



100054



更新

キャップスロック ON



*キャップスロック OFF



アルファベット転送

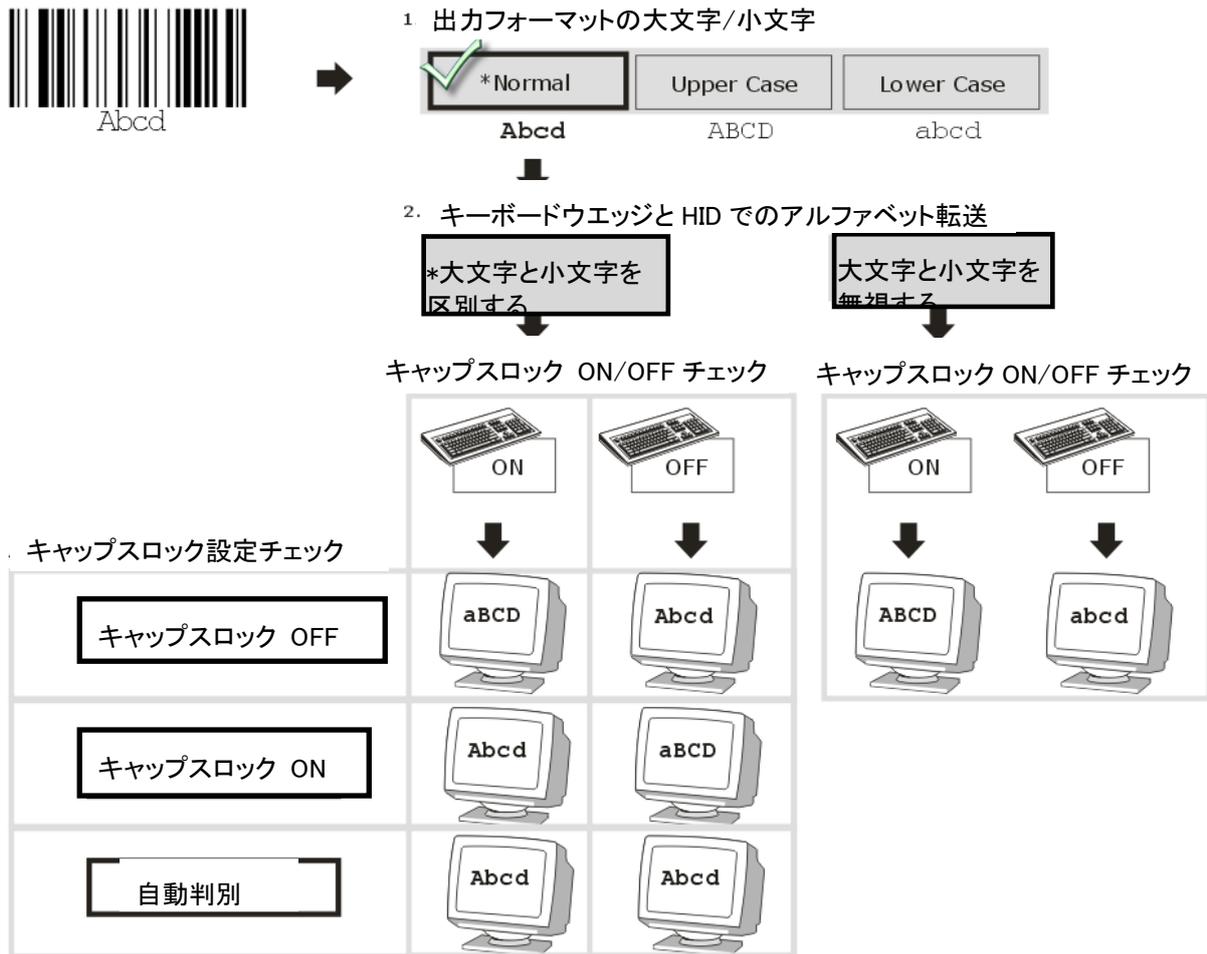
デフォルトで、アルファベット転送は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャップスロックのステータス、およびキャップスロック設定に従って転送されます。キーボードのキャプチャ1ロックのステータスのみに従ってアルファベットを転送するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

大文字小文字を無視



*大文字と小文字を区別
する





数字転送

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の転送に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。

テンキー



更新

*英数字キー



100040



注記: 「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。



2.3.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔
... (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.3.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01～0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード間
転送間隔 (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

2.3.5 HID 文字転送モード

デフォルトで、HID インターフェースはホストヘデータをバッチ単位で転送します。スキャナーに「文字単位で」バーコードを読み取らせ、一度に1文字ずつデータを処理することができます。

*バッチ処理



100064

1文字ごと



100065

2.3.6 特殊キー

デフォルトで、このインターフェースはキーボードウェッジ表で定義されたファンクションコード(0x01~0x1F)を採用しています。しかし、データエラーを避けるためにバーコード内部でこれらのファンクションコードを取り除く必要があるかもしれません。特殊キーを適用するかどうかを決定できます。

*適用



100018

バイパス



100019



2.4 USB VIRTUAL COM

USB ケーブルを使用してスキャナーを PC の USB ポートに接続します。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに転送されます。

注記: 初めて USB Virtual COM を使用する場合、前もってそのドライバをインストールする必要があります。バージョン 5.4 以降のドライバが必要です。古いバージョンを削除してください。あるいは、USB communication device class (CDC) driver を使い、Direct USB VCOM_CDC を選択することも出来ます。参照 [2.5 USB VCOM_CDC](#)。

2.4.1 USB VIRTUAL COM をアクティブにする

USB Virtual COM をアク
ティブにする



2.4.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード間
転送間隔(*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

2.4.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後にさらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1～99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

(*0～99) 後の ACK/NAK タイムアウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを転送しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

ACK/NAK エラービープ音

有効



*無効



注記: ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。



2.5 USB VCOM_CDC

注記: 初めて USB Virtual COM をお使いの場合は VCOM_CDC ドライバーを前もってインストールして下さい。

2.5.1 USB VCOM_CDC をアクティブにする

Direct USB VCOM_CDC をア
クティブにする



2.5.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01~0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード間
転送間隔 (*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.5.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後にさらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

(*0~99)後の ACK/NAK タ
イムアウト



デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後にさらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。



更新

ACK/NAK エラービープ音

有効



*無効



注記: ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。



バーコードシンボルの設定

本章の目次

3.1	Codabar	72
3.2	Code 25 – Industrial 25	74
3.3	Code 25 – Interleaved 25	76
3.4	Code 25 – Matrix 25	78
3.5	Code 39	80
3.6	Code 93	82
3.7	Code 128	82
3.8	EAN-8	83
3.9	EAN-13	85
3.10	GS1-128 (EAN-128)	90
3.11	ISBT 128	92
3.12	MSI	93
3.13	French Pharmacode	95
3.14	Italian Pharmacode	95
3.15	Plessey	96
3.16	GS1 DataBar (RSS ファミリー)	97
3.17	Telepen	102
3.18	UPC-A	103
3.19	UPC-E	105



3.1 CODABAR

*有効



無効



3.1.1 セキュリティーレベル

セキュリティーレベルを設定して、バーコードの印字品質による誤読を防ぎます。

* 高



ノーマル



3.1.2 スタート/ストップ文字の転送

転送する



*転送しない



3.1.3 スタート/ストップパターン文字の選択

下記 4 つの組み合わせから選択 します。

* abcd/abcd	
	100436
abcd/tn*e	
	100437
ABCD/ABCD	
	100438
ABCD/TN*E	
	100439

3.1.4 CLSI 変換

有効になっているとき、CLSI 編集はスタート/ストップ文字を取り去り、14 文字コーダバーの最初、5 番目、10 番目の文字の後にスペースを挿入します。

適用	
	100443
*適用しない	
	100442

注記: 14 文字のバーコード長に、スタート/ストップ文字は含まれません。



更新

3.2 CODE 25 – INDUSTRIAL 25

*有効



100307

無効



100306

3.2.1 スタート/ストップパターンの選択

2 of 5 バーコードには変種があります。例えば航空チケットの場合 Industrial 2 of 5 バーコードですがスタート/ストップパターンは Interleaved 2 of 5 のスタート/ストップパターンを使用しています。このようなバーコードを読み取るとき “Interleaved 25” スタート/ストップパターンを選択しなければなりません。

*Industrial 25 スタート
/ストップパターン

100412

Interleaved 25 スタート
/ストップパターン

100413

Matrix 25 スタート/ス
トップパターン

100414

3.2.2 チェックデジットを確認する

確認する



100425

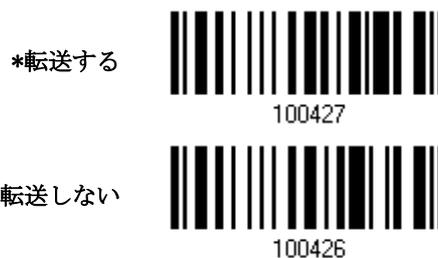
*確認しない



100424



3.2.3 チェックデジットを転送する

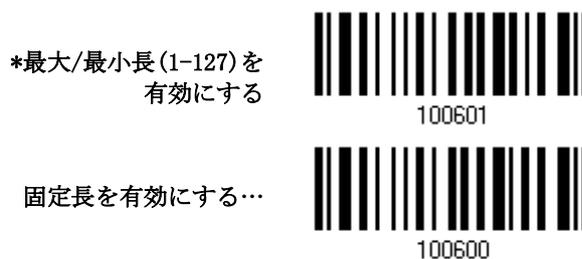


3.2.4 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

3.3 CODE 25 – INTERLEAVED 25

*有効



無効



3.3.1 スタート/ストップパターンの選択

2 of 5 バーコードには変種があります。例えば航空チケットの場合 Industrial 2 of 5 バーコードですがスタート/ストップパターンは Interleaved 2 of 5 のスタート/ストップパターンを使用しています。このようなバーコードを読み取るとき “Interleaved 25” スタート/ストップパターンを選択しなければなりません。

Industrial 25 スタート/ストップパターン



*Interleaved 25 スタート/ストップパターン



Matrix 25 スタート/ストップパターン



3.3.2 チェックデジットを確認する

チェックデジットが間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

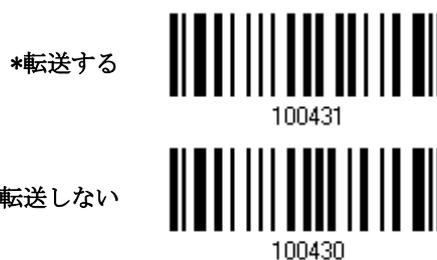
確認する



*確認しない



3.3.3 チェックデジットを転送する

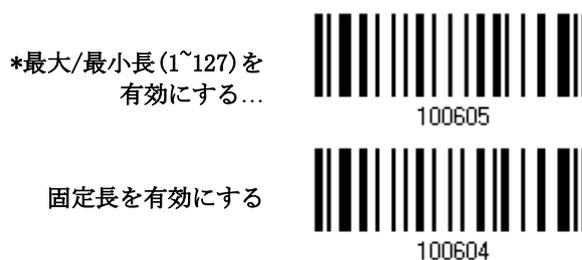


3.3.4 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、チェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

3.4 CODE 25 – MATRIX 25

有効



100311

*無効



100310

3.4.1 スタート/ストップパターンの選択

2 of 5 バーコードには変種があります。例えば航空チケットの場合 Industrial 2 of 5 バーコードですがスタート/ストップパターンは Interleaved 2 of 5 のスタート/ストップパターンを使用しています。このようなバーコードを読み取るとき “Interleaved 25” スタート/ストップパターンを選択しなければなりません。

Industrial 25 スタート
/ストップパターン

100420

Interleaved 25 スタート
/ストップパターン

100421

*Matrix 25 スタート/
ストップパターン

100422

3.4.2 チェックデジットの確認

確認する



100433

*確認しない



100432



3.4.3 チェックデジットの転送

*転送する



100435

転送しない



100434

3.4.4 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます

注記: 指定の長さには、チェックデジットを含む必要があります。

バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします

*最大/最小長 (1~127) を
有効にする



100609

固定長を有効にする



100608

最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。

最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (*127) または固定
長 1



100610

最小長 (*4) または固定長
2



100611

目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。

この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

3.5 CODE 39

*有効



100301

無効



100300

3.5.1 スタート/ストップ文字の転送

転送する



100403

*転送しない



100402

3.5.2 チェックデジットの確認

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません

確認する



100405

*確認しない



100404

3.5.3 チェックデジットの転送

*転送する



100407

転送しない



100406



セットアップに入る

3.5.4 標準/FULL ASCII CODE 39 のサポート

すべての英数字と特殊文字を含む Code 39 Full ASCII をサポートするかどうかを決定します。



3.5.5 セキュリティーレベル

印字品質による誤読を防ぎます。



3.5.6 アスタリスク (*)をデータの一部とする



更新

3.6 CODE 93

*有効



100315

無効



100314

3.7 CODE 128

*有効



100317

無効



100316

3.7.1 セキュリティーレベル

印字品質による誤読を防ぎます。

ノーマル



100493

*高



100492



セットアップに入る

3.8 EAN-8

EAN-8

*有効
(No アドオン)



無効



EAN-8 アドオン 2

有効



*無効



EAN-8 アドオン 5

有効



*無効



3.8.1 EAN-13 に変換

- ▶ 変換後は EAN-13 フォーマットが適用されます(チェックデジットなど)。

変換する



*変換しない



更新

3.8.2 チェックデジットを転送する

*転送する



転送しない



3.8.3 変換フォーマット

EAN-8 を EAN-13 に変換する際、デフォルトフォーマットで、あるいは GTIN-13 フォーマットで変換するか決定して下さい。

*デフォルトフォーマット



GTIN-13 フォーマット



3.9 EAN-13

EAN-13

*有効
(No アドオン)



無効



EAN-13 アドオン 2

有効



*無効



EAN-13 アドオン 5

有効



*無効



3.9.1 ISBN に変換する

978 と 979 で開始する EAN-13 バーコードを ISBN に変換するかどうかを決定します。

変換する



*変換しない



更新

3.9.2 ISSNに変換する

977 で開始する EAN-13 バーコードを ISSN に変換するかどうかを決定します。

変換する



*変換しない



3.9.3 チェックデジットを転送する

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*転送する



転送しない



3.9.4 セキュリティーレベル

印字品質による誤読を防ぎます。

*ノーマル



*高



3.9.5 EAN-13 ADDON MODES

414/419/434/439 で始まる EAN-13 の読取りを設定します

EAN-13 414/419/434/439 Addon Mode



378/379 で始まる EAN-13 の読取りを設定します。

EAN-13 378/379 Addon Mode



977 で始まる EAN-13 の読取りを設定します。

EAN-13 977 Addon Mode



更新

978 で始まる EAN-13 の読取りを設定します。

EAN-13 978 Addon Mode



979 で始まる EAN-13 の読取りを設定します。

EAN-13 979 Addon Mode



491 で始まる EAN-13 の読取りを設定します。

EAN-13 491 Addon Mode



529 で始まる EAN-13 の読取りを設定します。

EAN-13 529 Addon Mode



アドオン2またはアドオン5のサフィックスが無いバーコードを読み込んだ時、ブザー(高音から低音へ)を発するかどうかを設定します。

EAN-13 Addon Mode Buzzer



更新

3.10 GS1-128 (EAN-128)

*有効



無効



注記: GS1-128 バーコードは、設定が無効の時は Code-128 とされます。

3.10.1 CODE ID を転送する

転送されるデータに Code ID (「C1」)を含めるかどうかを決定します。

転送する



*転送しない



3.10.2 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り文字(FNC1 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します

有効



- 1) フィールド区切り文字を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

注記: GS1-128 バーコードは Code 128 の他の使用と混同されないように FNC1 制御文字で始まります。FNC1 は、GS1-128 バーコードのデータフィールドを区切るするためにも使用されます。



3.10.3 GS1 フォーマットティング



3.10.4 アプリケーション識別子

GS1 データに変換するとき、アプリケーション識別子(1文字)を左(AIMark1)または右(AIMark2) に付加するか選択します。



- 1) 上記のバーコードを読み取ります。
- 2) “” で文字を選択。もしアプリケーション識別子が必要でないときは'00'を読み込みます。
- 3) “確認”バーコードを読んで確定します。



3.11 ISBT 128

*有効



無効



3.11.1 ISBT 連結

ISBT バーコードのペアをデコードし連結するかどうかを決定します。

▶ ISBT 連結を無効にする

発生する ISBT バーコードのペアを連結しません。

▶ ISBT 連結を有効にする

スキャナーがデコードし連結を実行するには、2 つの ISBT バーコードがなければなりません。ISBT バーコードが 1 つの場合はデコードしません。

▶ ISBT 連結の自動識別

ISBT バーコードのペアを直ちにデコードして連結します。ISBT バーコードが 1 つしか存在しない場合、スキャナーはそのデータを転送する前に 10 回デコードして追加の ISBT バーコードがないことを確認します。

*自動識別



有効



無効



3.12 MSI

有効



100345

*無効



100344

3.12.1 チェックデジットを確認する

バーコードをデコードしているとき、チェックデジットを確認するために3つの計算の1つを選択します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

*シングルモジュロ 10



100448

ダブルモジュロ 10



100449

モジュロ 10 & 11



100450

3.12.2 チェックデジットの転送

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*最後のデジットは転送
しない

100452

両方のデジットを転送



100453

両方のデジットを転送し
ない

100454



更新

3.12.3 コード長必要条件

- ▶ 短いスキャン]エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします

*最大/最小長 (1~127) を有効にする



固定長を有効にする…



最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。

最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (127) を有効にする



最小長 (*4) または固定長 2



- 1) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。
- 2) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.13 FRENCH PHARMACODE

有効



*無効



3.13.1 チェックデジットの転送

*転送する



転送しない



3.14 ITALIAN PHARMACODE

有効



*無効



3.14.1 チェックデジットの転送

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*転送する



転送しない



更新

3.15 PLESSEY

有効



*無効



デコードされたデータの'A'を'X'に変換するかどうかを決定します

3.15.1 UK PLESSEYに変換する

変換する



*変換しない



3.15.2 チェックデジットの転送

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*転送する



転送しない



3.16 GS1 DATABAR (RSS ファミリー)

以下の 3 つのグループに分類されます:

Group I – GS1 DataBar Omnidirectional (RSS-14)

このグループは、右記ように構成されます

- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional
- ▶ GS1 DataBar Truncated
- ▶ GS1 DataBar Stacked
- ▶ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional

Group II – GS1 DataBar Expanded (RSS Expanded)

このグループは、右記のように構成されます:

- ▶ GS1 DataBar Expanded
- ▶ GS1 DataBar Expanded Stacked

Group III – GS1 DataBar Limited (RSS Limited)

このグループは、右記のように構成されます:

- ▶ GS1 DataBar Limited

3.16.1 CODE ID の選択

使用する目的の Code ID を選択します:

- ▶ “]e0” (GS1 DataBar Code ID)
- ▶ “]c1” (GS1-128 Code ID)

“]c1” を使う



* “]e0” を使う



更新

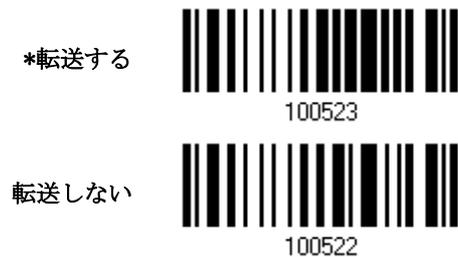
3.16.2 GS1 DATABAR OMNIDIRECTIONAL (RSS-14)



以下の設定はグループ1のシンボル体系のみに適用されます:

- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional
- ▶ GS1 DataBar Truncated
- ▶ GS1 DataBar Stacked
- ▶ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional

Code ID の転送



Application ID の転送

転送するデータに Application ID ("01")を含めるかどうか決定します。



チェックデジットの転送

*転送する



転送しない



3.16.3 GS1 DATABAR EXPANDED (RSS EXPANDED)

有効
(Groups I, II)



*無効



以下の設定はグループ II のシンボル体系のみに適用されます:

- ▶ GS1 DataBar Expanded
- ▶ GS1 DataBar Expanded Stacked
- ▶

Code ID の転送

*転送する



転送しない



更新

3.16.4 GS1 DATABAR LIMITED (RSS LIMITED)

有効
(Group III)



*無効



Code ID の転送

*転送する



転送しない



Application ID の転送

転送されるデータに Code ID (「01」)を含めるかどうかを決定します。

*含める



含めない



チェックデジットの転送

*転送する



転送しない



3.16.5 フィールド区切り文字 (GS 文字)

フィールド区切り記号(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します



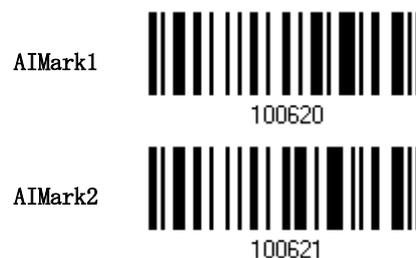
- 1) フィールド区切り記号を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

3.16.6 GS1 フォーマット



3.16.7 APPLICATION ID マーク

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI)の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加することができます。



- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコード読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



更新

3.17 TELEPEN

有効



100353

*無効



100352

3.17.1 AIM TELEPEN のサポート

Full ASCII コードをサポートするかどうか決定します

- ▶ AIM Telepen (Full ASCII) は英数字および特殊キャラクターを含みます。

オリジナル Telepen
(Numeric)



100485

*AIM Telepen



100484



3.18 UPC-A

UPC-A

*有効
(No アドオン)



無効



UPC-A アドオン 2

有効



*無効



UPC-A アドオン 5

有効



*無効



3.18.1 EAN-13 へ変換

- ▶ 変換後、データはEAN-13フォーマットに従い、EAN-13プログラミングセレクション(例えば、チェックデジット)が適用されます。

変換する



*変換しない



更新

3.18.2 システム番号の転送

*転送する



100477

転送しない



100476

3.18.3 チェックデジットの転送

*転送する



100469

転送しない



100468



セットアップに入る

3.19 UPC-E

UPC-E

*有効
(No アドオン)



無効



UPC-E アドオン 2

有効



*無効



UPC-E アドオン 5

有効



*無効



更新



3.19.1 システムナンバーの選択



- ▶ 普通の UPC-E バーコードのみか、あるいは UPC-E0 と UPC-E1 バーコードの両方をデコードするかどうかを決定します。
- ▶ システム番号 0 UPC-E0 バーコードをデコード
- ▶ システム番号 1 UPC-E1 バーコードデコード.

システムナンバー 0 & 1



*システムナンバー0 のみ



3.19.2 UPC-A に変換

- ▶ 変換後、データは UPC-A フォーマットに従い UPC-A プログラミングセレクション(例えば、システム番号、チェックデジット)が適用されます.

変換する



*変換しない



3.19.3 システムナンバーの転送

転送する



*転送しない



3.19.4 チェックデジットの転送

*転送する



転送しない



更新

出力フォーマットの設定

収集したデータをホストコンピュータに出力するフォーマットを設定できます。。

- 1) スキャンされたデータ上で文字の置換を実行します。
- 2) [Code ID](#)と[長さコード](#)を データの前に追加します:[Code ID][Length Code][Data]

ユーザーフォーマットのステップ 2 でデータ全体を処理します。ユーザー指定の規則により、データはフィールドに分割されます。[第 6 章 データ編集用のフォーマットを適用する](#)を参照してください。

[プリフィックス コード](#) と[サフィックスコード](#)を追加してから転送します:[Prefix Code][Processed Data][Suffix Code]

本章の目次

4.1 大文字/小文字の区別.....	110
4.2 文字置換.....	111
4.3 プレフィックス/サフィックス.....	121
4.4 Code ID.....	122
4.5 長さ Code.....	127
4.6 マルチバーコード編集.....	132
4.7 特定文字の削除.....	135



4.1 大文字・小文字の区別

デフォルトで、アルファベット転送は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットの大文字・小文字はその元の文字通りに転送されます。元の大文字・小文字を無視するには、[Upper Case (大文字)]を選択して大文字でのみデータを出力します。または、[Lower Case (小文字)]を選択して小文字のみでデータを出力します。



4.2 文字置換

- ▶ 「置換される」文字と、その文字を「置換」する文字を指定します。「置換される」文字のみが設定された場合はその文字が削除されます。
- ▶ 最初の設定した文字が2番目に設定した文字に置き換えられます。
- ▶ 3 セットまでの文字置換を設定できます。
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプととキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は1つのみ許可されます	N/A
通常キー	最大3文字列まで許可されます。	Shift の追加 左 Ctrl の追加 Alt の追加 右 Ctrl の追加 右 Alt の追加

注記: 文字置換は、バーコード自体で、編集フォーマットの処理前にのみ行われます。文字置換はプリフィックス/サフィックスコード、Code ID、長さコード、任意の追加フィールドには適用されません。



4.2.1 文字置換セットの選択

設定セット 1



設定セット 2



設定セット 3



1) セットごとに文字置換を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。

例えば、スキャナーに「セット1」のバーコードを読み取らせると、文字置換の最初の設定が実行されます。スキャナーから高いトーン、短いビープ音を1回返されると、セットアップバーコードがさらに必要なことを示しています。

2) 「[16進値](#)」バーコードをお読みください。

次ページに例を示します。



キータイプ = 通常

- ▶ “3”，“0”，“2”と“D”を読み取り、文字“0”をダッシュ“-”で置き換える。
- ▶ “3”，“0”，“2”，“D”，“3”と“0”を読み取り、文字“0”をダッシュ“-0”で置き換える。

キータイプ= スキャンコード

文字“0”を“a”(= スキャンコード表の“1C”)に置き換えたい場合:

1. “3”と“0”を読み取ります。
2. “Scan Code”バーコードを読み取ります。
3. “1”と“C”を読み取ります。

キータイプ = 通常 + キーステータス = Shift

文字“0”を“!”に置き換えたい場合(= キーボードの“Shift”+ ”1”):

1. “3”と“0”を読み取ります。
 2. “Shift の追加”バーコードを読み取ります。
 3. “3”と“1”を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。(デフォルトで、定義された 1 つまたは複数のセットはすべてのシンボル体系に適用されます)



4.2.2 文字置換用のシンボル体系(3 セットすべて)

デフォルトで、文字置換はすべてのシンボル体系で実行されます。1 つ以上のシンボル体系に目的のシンボル体系がない場合、不要なシンボル体系のそれぞれに対して「適用しない」バーコードを読み取ると、3 つのセットすべてが無視されます。

Codabar 文字置換

*適用



101253

適用しない



101252

Code 39 文字置換

*適用



101241

適用しない



101240

Code 93 文字置換

*適用



101255

適用しない



101254

Code 128 文字置換

*適用



101257

適用しない



101256



GS1-128 文字置換

*適用	 101259
適用しない	 101258

ISBT 128 文字置換

*適用	 101293
適用しない	 101292

EAN-8 (No アドオン) 文字置換

*適用	 101267
適用しない	 101266

EAN-8 アドオン 2 文字置換

*適用	 101269
適用しない	 101268



EAN-8 アドオン 5 文字置換

*適用	 101271
適用しない	 101270

EAN-13 (No アドオン) 文字置換

*適用	 101273
適用しない	 101272

EAN-13 文字置換

*適用	 101275
適用しない	 101274

EAN-13 アドオン 5 文字置換

*適用	 101277
適用しない	 101276



French Pharmacode 文字置換

*適用



適用しない



Italian Pharmacode 文字置換

*適用



適用しない



Industrial 25 文字置換

*適用



適用しない



Interleaved 25 文字置換

*適用



適用しない



Matrix 25 文字置換



更新

*適用



適用しない



MSI 文字置換

*適用



適用しない



Plessey 文字置換

*適用



適用しない



GS1 DataBar 文字置換

*適用



適用しない



Telepen 文字置換



*適用



101289

適用しない



101288

UPC-A (No アドオン) 文字置換

*適用



101279

適用しない



101278

UPC-A アドオン 2 文字置換

*適用



101281

適用しない



101280

UPC-A アドオン 5 文字置換

*適用



101283

適用しない



101282



更新

UPC-E (No アドオン) 文字置換

*適用



適用しない



UPC-E アドオン 2 文字置換

*適用



適用しない



UPC-E アドオン 5 文字置換

*適用



適用しない



4.3 プレフィックス/サフィックスコード

- ▶ デフォルトでは、プリフィックスコードはなく、[ENTER]または[CR]（キャリッジリターン）がサフィックスコードになるように設定されています。例えば、「Barcode_」などのように 8 文字まで設定可能なため、この「Barcode_1234567890」のようにバーコード読み取りの前に文字列を表示させることができます
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	最大 4 つのスキャンコード値が許可されます。	N/A
通常キー	最大 8 つの文字列が許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Shift の追加 ▶ 左 Ctrl の追加 ▶ 左 Alt の追加 ▶ 右 Ctrl の追加 ▶ 右 Alt の追加 キーウェッジ表を参照してください。

プレフィックスの設定



サフィックスの設定



- 1) プリフィックスコードまたはサフィックスコードを別々に適用するには、上のバーコードを読み取り、手順 2～3 に従います。(それぞれ、最大 8 文字)
- 2) 目的の文字置換については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、先頭または末尾に「+」の文字を置く場合、「2」と「B」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



4.4 CODE ID

- ▶ Code ID は、2文字までをそれぞれのシンボル体系に対して設定できます。Code ID をより簡単に設定できるように、5つの定義済み CodeID セットが用意されています。
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は1つのみ許可されます。	N/A
通常キー	最大 2 文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Shift の追加 ▶ 左 Ctrl の追加 ▶ Alt の追加 ▶ 右 Ctrl の追加 ▶ 右 Alt の追加 キーボードウェッジ表を参照してください。

注記: 「]C1」は GS1-128 (EAN-128)バーコードの Code ID で、「]e0」は GS1 DataBar (RSS)バーコードのデフォルトの Code ID です。

4.4.1 定義済み CODE ID の選択

Code ID Set 1	
	109961
Code ID Set 2	
	109962
Code ID Set 3	
	109963
Code ID Set 4	
	109964
Code ID Set 5	
	109965



Code ID オプション	Set 1	Set 2	Set 3	Set 4	Set 5
Code 39	A	C	Y	M	A
Italian Pharmacode	A	C	Y	M	A
French Pharmacode	A	C	Y	M	A
Industrial 25	C	H	H	H	S
Interleaved 25	D	I	Z	I	S
Matrix 25	E	G	G	G	S
Codabar	F	N	X	N	F
Code 93	I	L	L	L	G
Code 128	H	K	K	K	C
ISBT 128	H	K	K	K	C
UPC-E	S	E	C	E	E
EAN-8	P	B	B	FF	E
EAN-13	M	A	A	F	E
UPC-A	J	A	A	A	E
MSI	V	V	D	P	M
Plessey	W	W	E	Q	P
Telepen	Z	---	---	---	---



4.4.2 CODE ID の変更

- 1) 特定のシンボル体系の CODE ID を変更するには、以下のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字置換については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、Code ID に対して文字[D]を適用するには、「4」と「4」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります



Codabar	 101456
Code 39	 101450
Code 93	 101457
Code 128	 101458
ISBT 128	 101466
EAN-8	 101460
EAN-13	 101461
French Pharmacode	 101452
Italian Pharmacode	 101451
Industrial 25	 101453
Interleaved 25	 101454



更新

Matrix 25	 101455
MSI	 101463
Plessey	 101464
Telepen	 101465
UPC-A	 101462
UPC-E	 101459

4.4.3 CODE ID 設定の消去

すべての Code ID 設定を 消去する	 109960
--------------------------	---

	セットアップに入る
---	-----------

4.5 長さコード (LENGTH CODE)

バーコードデータの長さ(文字数)を表す 4 桁のコードは、転送されるデータの前に付加できます。それぞれのシンボル体系について、そのような「長さ」コードは個別に有効または無効にできます。

Codabar の長さコード

適用



*適用しない



Code 39 の長さコード

適用



*適用しない



Code 93 の長さコード

適用



*適用しない



更新

Code 128 の長さコード

適用



*適用しない



GS1-128 & GS1 DataBar の長さコード

適用



*適用しない



ISBT 128 の長さコード

適用



*適用しない



EAN-8 の長さコード

適用



*適用しない



EAN-13 の長さコード

適用	 101425
*適用しない	 101424

French Pharmacode の長さコード

適用	 101405
*適用しない	 101404

Italian Pharmacode の長さコード

適用	 101403
*適用しない	 101402

Industrial 25 の長さコード

適用	 101407
*適用しない	 101406



更新

Interleaved 25 の長さコード

適用



*適用しない



Matrix 25 の長さコード

適用



*適用しない



MSI の長さコード



Pleesey の長さコード

適用



*適用しない



Telepen の長さコード

適用



101433

*適用しない



101432

UPC-A の長さコード

適用



101427

*適用しない



101426

UPC-E の長さコード

適用



101421

*適用しない



101420



更新

4.6 マルチバーコードエディタ

マルチバーコードエディタを設定して最大5個のバーコードを連結して出力できます。その場合スキャンモードはレーザーモードに設定されます。連結したすべてのバーコードの最大出力データ長は 10 KB です。データ長が 10 KB を超えると、連結は有効になりません。

注記: マルチバーコードエディタは [Multi-Barcode モード](#) と関係がありません。

以下の指定された基準に合致するバーコードは、希望するシーケンスで配列されます。

- ▶ コードタイプ的一致
- ▶ プリフィックス、サフィックス、長さコードなどを除いた、4桁のバーコード長的一致
- ▶ バーコードデータの最初の文字的一致

4.6.1 バーコード連結の編集

出力シーケンスの編集



- 1) バーコードの連結の編集を開始するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) コードタイプの設定 - (最初の)バーコードのコードタイプについては、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、Code 39 の場合「4」と「1」を読み取ります。



Code Type	Symbology	Code Type	Symbology
40 (@)	ISBT 128	4F (O)	EAN-8 with Addon 5
41 (A)	Code 39	50 (P)	EAN-13
42 (B)	Italian Pharmacode	51 (Q)	EAN-13 with Addon 2
43 (C)	French Pharmacode	52 (R)	EAN-13 with Addon 5
44 (D)	Industrial 25	53 (S)	MSI
45 (E)	Interleaved 25	54 (T)	Plessey
46 (F)	Matrix 25	55 (U)	GS1-128 (EAN-128)
47 (G)	Codabar (NW7)	56 (V)	UPC-A
48 (H)	Code 93	57 (W)	UPC-A with Addon 2
49 (I)	Code 128	58 (X)	UPC-A with Addon 5
4A (J)	UPC-E0 / UPC-E1		
4B (K)	UPC-E with Addon 2	5A (Z)	Telepen
4C (L)	UPC-E with Addon 5	5B ([])	GS1 DataBar (RSS)
4D (M)	EAN-8		
4E (N)	EAN-8 with Addon 2		

- 3) バーコード長の設定 - (最初の)バーコードの4桁長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、65文字のバーコード長の場合は「0065」を、または任意の長さの場合は「0000」を読み取ります。

注記: もし0000を読み取らない場合は、4桁長さにはプレフィックス/サフィックス(デフォルト値0x0d)、長さCodeなどは除外されます。

一致する文字設定 - 最初の文字については「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、バーコードの最初の文字と一致する文字「A」の場合は「4」と「1」を読み取るか、任意の文字の場合「00」を読み取ります。

それぞれのバーコードの設定を完了するには、178ページ(「FF」)の「F」バーコードを2回読み取ります。

バーコードセットの編集を終了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



4.6.2 バーコードの連結をアクティブにする

デフォルトで、バーコードの連結の出力シーケンス編集は適用されていません。

「Enforce Output Sequence (出力シーケンスの強制)」が選択されているとき、スキャナーによって読み取られるすべてのバーコードは、連結の基準に合致する必要があります。データがすべての出力シーケンスの基準に合致しない場合、スキャナーは読み取りを受け入れず、その結果、データは転送されません。

「Apply Output Sequence (出力シーケンスの適用)」が選択されているとき、基準に一致するバーコードのみが連結されます。基準を満たしていないバーコードは、の標準的に処理されます。

注記: 受け入れ可能なバーコードの読み取りが完了すると、スキャナーは短いビープ音(高い)を1回返し、LEDインジケータが赤色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。受け入れ可能なバーコードを読み取った後、LEDのインジケータが緑色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。

受け入れ可能なバーコードの読み取りが完了すると、スキャナーは短いビープ音(高い)を1回返し、LEDインジケータが赤色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。



警告: Multi-Barcode Editor を後で無効にした場合、スキャンモードはレーザーモードのままです。

レーザーモードが不要な場合、続けて自分の用途にもっとも適したスキャンモードを選択して下さい



4.7 特定文字の削除

指定できるのは 1 文字だけです。、バーコードデータの開始位置から異なる文字が表れるまで、指定された文字が削除されます。例えば、文字「0」(16 進数値は「30」)を削除するように指定した場合、1 つ以上のゼロがバーコードデータ「012345」および「00012345」から取り去られます。しかし、バーコードデータ「010333」の場合、最初のゼロのみが取り去られます。

特定文字を削除



- 1) 指定された文字を削除するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、「0」の文字を削除する場合、「3」と「0」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



更新

データ編集用のフォーマットを適用する

ユーザー設定の編集フォーマットにより詳細なデータ編集が可能になります。ユーザー指定のルールにより、処理されたデータ全体がフィールドに分けられます。これらのフィールドはユーザー設定可能な追加フィールドと共に、ホストコンピュータに実際に転送されます。

編集フォーマットを適用すると、設定後のすべてのバーコードの最大出力データ長は 7 KB になります。データ長が 7 KB を超えると、

編集フォーマットは有効になりません

[Prefix Code]	[Code ID]	[Length Code]	[Data]	[Suffix Code]	Additional Field(s)
デフォルトでは無し	デフォルトでは無し	デフォルトでは無し	データはそのまま	デフォルトでは 0x0d	

本章の目次

5.1 編集フォーマットをアクティブにする	138
5.2 編集フォーマット設定の方法	140
5.3 フォーマットの設定—データ基準の定義	14242
5.4 フォーマットを設定する — データフィールドの定義	150
5.5 フォーマットの設定—転送シーケンスの定義	159
5.6 プログラミング例	163



5.1 編集フォーマットをアクティブにする

5.1.1 編集フォーマットをアクティブにする

すでに編集フォーマットが設定されている場合、編集フォーマットを直接適用できます。未設定の場合は、まず編集フォーマットの設定を開始してから、使用するとき編集フォーマットをアクティブにします。

編集フォーマット 1

適用



101301

*無効



101300

編集フォーマット 2

適用



101303

*無効



101302

編集フォーマット 3

適用



101305

*無効



101304



編集フォーマット 4

適用



101307

*無効



101306

編集フォーマット 5

適用



101309

*無効



101308

5.1.2 排他的データ編集

デフォルトで、基準を満たしたバーコードのみが編集フォーマットによって処理されます。基準を満たしていないバーコードは、通常通りに処理されます

「排他的データ編集」が有効になっているとき、スキャナーが読み取るバーコードはすべて編集フォーマットで処理されます。データが基準に合致しない場合はスキャナーは読み取りせずにその結果、データは転送されません。

有効



101201

*無効



101200



更新

5.2 編集フォーマット設定方法

5.2.1 編集フォーマットの選択

フォーマットプログラミングの開始

1つの編集フォーマット(フォーマット1~5)を選択すると、編集フォーマットに関連するパラメータ(適用可能なコードタイプ、データ長、一致する文字列と位置、開始位置、フィールド調整、フィールド総数、フィールド設定(フィールド区切りルール)、追加フィールド、フィールド転送シーケンス)を設定できます。

- ▶ フォーマットは、5つまで指定できます。

Format 1 の設定



Format 2 の設定



Format 3 の設定



Format 4 の設定



Format 5 の設定



注記: 編集フォーマットのプログラミングを完了する前に、スキャナーに編集フォーマットに関連するもの以外のパラメータのバーコードを読み取らせている場合、プログラミングプロセスは自動的に中止されます。

フォーマットプログラミングの終了

目的のパラメータをすべて設定し終わったら、スキャナーに、本章のすべての偶数ページの下部に記載された「プログラミングフォーマットの終了」を読み取らせる必要があります。

フォーマットプログラミ
ングの終了



5.2.2 編集フォーマットをデフォルト値に戻す

デフォルト設定は以下の通りです。

編集フォーマット	デフォルト
適用コードタイプ	すべて
データ長	0 (必要条件なし)
一致する文字列	無効
一致する文字列の位置	なし
開始位置	先頭から
フィールド調整	調整なし
フィールド総数	1
フィールド設定 - フィールド区切りルール	未設定
追加フィールド	なし
フィールド転送シーケンス	F1

デフォルト値に戻す



109990



更新

5.3 フォーマットの設定 – データ基準の定義

スキャナーが読み取ったデータを特定の編集フォーマットで処理できるかどうかをチェックするために、3つの適用条件を設定します。

注記: 3つの条件がすべて満たされない場合、データ編集を実行することはできません。

5.3.1 適用コードタイプ

デフォルトで、サポートされるすべてのシンボル体系のバーコードが、編集フォーマットによって処理されます。素早く制限するためには、まずすべてを消去してから、目的のシンボル体系を選択してください

注記: 少なくとも1つのシンボル体系を選択する必要があります。

*すべてに適用



全て消去



Codabar

*適用



適用しない



Code 39

*適用



適用しない



Code 93

*適用



適用しない



Code 128

*適用



適用しない



GS1-128 & GS1 DataBar

*適用



適用しない



ISBT 128

*適用



適用しない



更新

EAN-8

*適用



適用しない



EAN-8 アドオン 2

*適用



適用しない



EAN-8 アドオン 5

*適用



適用しない



EAN-13

*適用



適用しない



EAN-13 アドオン 2

*適用



適用しない



EAN-13 アドオン 5

*適用



適用しない



French Pharmacode

*適用



適用しない



Italian Pharmacode

*適用



適用しない



Industrial 25

*適用



適用しない



Interleaved 25

*適用



適用しない



Matrix 25

*適用



適用しない



MSI

*適用



適用しない



Plessey

*適用



適用しない



Telepen

*適用



適用しない



UPC-A

*適用



適用しない



UPC-A アドオン 2

*適用



適用しない



更新

UPC-A アドオン 5

*適用



101543

適用しない



101542

UPC-E

*適用



101521

適用しない



101520

UPC-E アドオン 2

*適用



101523

適用しない



101522

UPC-E アドオン 5

*適用



101525

適用しない



101524



5.3.2 データ長

データ長にはプリフィックス、サフィックス(デフォルトで、0x0d)、長さコードなどを含む必要があります。デフォルトでは、すべての長さ(文字数)のバーコードがデータ編集の対象となります。

- ▶ データ長値を指定します。
 - ▶ ゼロが両方に与えられているとき、スキャナーは長さ制限を実行しません。
- 1) 以下のバーコードを読み取り最大長または最小長を別々に指定して手順 2~3 に従います。



- 2) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

5.3.3 一致する文字列と位置

- ▶ デフォルトで、照合文字列は指定されていないため無効になっています。一致する文字列を指定することで、この機能を有効にできます。最大 4 文字まで許可されます。
 - ▶ 照合文字列位置がゼロのとき、スキャナーはバーコードデータの照合文字列の存在のみを確認します。
- 1) 一致する文字列がバーコードデータのどこから始まるかを示すために、値を指定します..



- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
- 4) バーコードを読み取り、一致する文字列の位置を指定してください。



- 5) 目的の位置については「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 6) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



5.4 フォーマットを設定する – データフィールドの定義

5.4.1 開始位置

データは次の方向のいずれかで、フィールドに分割されます。

- ▶ 先頭(F1)から末尾へ(F5)
- ▶ 末尾(F1)から先頭へ(F5)



5.4.2 フィールド調整

必要に応じて、すべてのフィールドに等しい長さを適用できます。データが指定より長い場合、自動的に切り詰められます。データが短い場合、フィールドに「スペース」(0x20)が追加されます。



- 1) 長さによってフィールドを調整するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的のフィールド長については、[10進値](#) バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



5.4.3 フィールド総数

- ▶ データは多くても6つのフィールドに分割され、そのそれぞれにF1～F6の番号が付けられます。しかし、F1～F5のみが設定可能です。
- ▶ フィールドの総数は正しく指定する必要があります。編集フォーマットに対して3つのフィールドが設定される場合、F3の後でデータ文字がF4に自動的に割り当てられます。可変長のデータが編集フォーマットにより処理される時は特に、この機能がとても役立ちます。



注記: 設定可能なフィールド数は、指定されたフィールドの総数より常に1つ少ない数です。設定された最後のフィールドを超える余分なデータは、次のフィールドに自動的に割り当てられます。



5.4.4 フィールド設定

編集フォーマットの対象となるフィールドは、フィールド区切り文字列または指定されたフィールド長のいずれかを使用して、ユーザー指定の規則によるフィールドに分割されます

区切り文字列で

フィールド区切り文字列を指定します。最大2文字まで許可されます。スキャナーは、データ内のこの特定の文字列の出現を調べます

- ▶ デフォルトで、この文字列はフィールドに含まれます。

長さによって

または、フィールド長を指定することができます。スキャナーは、指定した次の文字数をフィールドに割り当てます。



フィールド 1 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド 1 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 1
を分割する



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適の場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字を含む



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 1 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィールド
1 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

フィールド 2 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 2
を分割する



2. 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適当な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィールド
2 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



フィールド 3 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 3 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 3
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 3 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィールド
3 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

フィールド 4 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 4
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィールド
4 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



フィールド 5 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 5 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 5
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 5 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィールド
5 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

追加フィールド

それぞれの編集フォーマットに対して5つまでフィールドを追加で作成できます。それぞれのフィールドにはAF1～AF5の数字が付けられます。

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は2つまで許可されます。	N/A
通常キー	最大4文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Shift の追加 ▶ 左 Ctrl の追加 ▶ Alt の追加 ▶ 右 Ctrl の追加 ▶ 右 Alt の追加

- 一度に1つずつ追加フィールドを指定するには、以下のバーコードを読み取ります。



追加フィールド 4...



追加フィールド 5...



2. 目的の追加フィールドについては、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

5.4.5 休止フィールド設定

休止フィールド時間

休止時間を(1~16)に制限できます。デフォルトでは、1秒に設定されています。

休止フィールド時間
1~16秒(*1)



1. 休止フィールドの時間を指定するには、上のバーコードを読み取ります。(デフォルトでは、1に設定されています。)
2. 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、休止フィールド時間を10秒に設定する場合、「1」と「0」を読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

5.5 フォーマットの設定 — 転送シーケンスの定義

データフィールドと追加フィールドを設定した後、最終データから成るこれらのフィールドの転送シーケンスをプログラムできるようになります。このフィールド転送シーケンスは目的の順序で割り当てることが可能で、フィールドも何度でも割り当てることができます。

注記: 最大 12 のフィールドを割り当てることができます。

フィールド転送シーケンスのプログラミングから始めるには、「開始」バーコードを読み取ります。

プログラミングの開始...



101589

次ページの目的のフィールドと追加フィールドを読み取ることで、転送シーケンスをプログラムします。



フィールド 1 
109901

フィールド 2 
109902

フィールド 3 
109903

フィールド 4 
109904

フィールド 5 
109905

フィールド 6 
109906

追加フィールド 1 
109907

追加フィールド 2 
109908

追加フィールド 3 
109909

追加フィールド 4 
109910



更新

追加フィールド 5



休止フィールド



ヌル文字フィールド



4) この設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。

プログラミングの終
了...



5.6 プログラミング例

5.6.1 例1

10 番目の文字から 19 番目の文字までのデータを抽出します...

編集フォーマットを次のように設定します。

1. 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。
2. 「フォーマット 1 の設定」バーコードを読み取ります。
3. 適用可能なコードタイプに対して、「すべて消去」と「Code 128」を読み取ります。
4. 「3 つのフィールド」バーコードを読み取ります。
5. 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 9 に設定します。
フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始めて 9 番目の文字まで進みます。
6. 「長さによってフィールド 2 を分割」バーコードを読み取り、長さを 10 に設定します。
フィールド 2 のデータは 10 番目の文字から始めて 19 番目の文字まで進みます。
7. 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、転送シーケンスをプログラムします。
8. 「フィールド 2」バーコードを読み取ります。
9. 転送シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。
10. 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取りません。
11. 編集フォーマット 1 を Code 128 に適用するには、「フォーマット 1 を有効にする」バーコードを読み取りません。
12. 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。



5.6.2 例2

バーコードから日付コード、項目番号、数量情報を抽出

バーコードのデータはこのようにエンコードされています。

▶1 番目の文字から 6 番目の文字までは、日付コードです。

▶7 番目の文字からダッシュ「-」文字までは、項目番号です。

▶ダッシュ「-」文字の後に数量情報が続きます。

データはこのように転送されます。

▶項目番号が最初に送られ、次に TAB 文字、次に日付コード、別の TAB 文字が続き、そして数量情報で終わります。

編集フォーマットを次のように設定します。

1 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。

2 「フォーマット 2 の設定」バーコードを読み取ります。

3 「3 つのフィールド」バーコードを読み取ります。

4 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 6 に設定します。

フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始まって 6 番目の文字まで進みます。

5 「フィールド区切り文字列を選択してフィールド 2 を分割する」バーコードを読み取り、ダッシュ「-」文字を使用します。

フィールド 2 のデータは 7 番目の文字から始まり、ダッシュ「-」文字で終わります。

6 「追加フィールド 1」バーコードを読み取り、フィールド用のタブ文字を使用します。

7 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、転送シーケンスをプログラムします。

8 「フィールド 2」、「追加フィールド 1」、「フィールド 1」、「追加フィールド 1」、「フィールド 3」バーコードを読み取ります。

9 転送シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。

10 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取ります。



- 11 編集フォーマット 2 をすべてのコードタイプに適用するには、「フォーマット 2 を有効にする」バーコードを読み取ります。
- 12 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。



ファームウェアのアップグレード

RS-232 を使う

- 1) RS-232 ケーブルでスキャナーと PC を接続し、電源につないで下さい。
- 2) ダウンロードを開始するには、次のバーコードを順番に読み取ります。スキャナーからピープ音が鳴り、ダウンロードの準備ができたことを知らせます。

セットアップに入る



ダウンロード



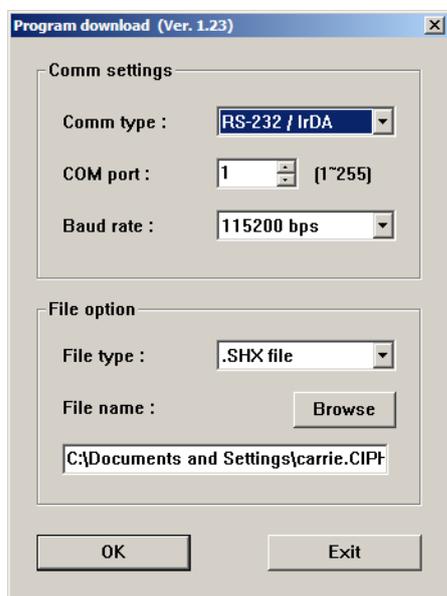
109997

- 3) コンピュータでダウンロードユーティリティ「ProgLoad.exe」を実行します。



更新

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K1564_V*.shx	STD1564_V*.shx



- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェース用の「RS-232」と正しいCOMポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては 115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)] をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK] をクリックします。

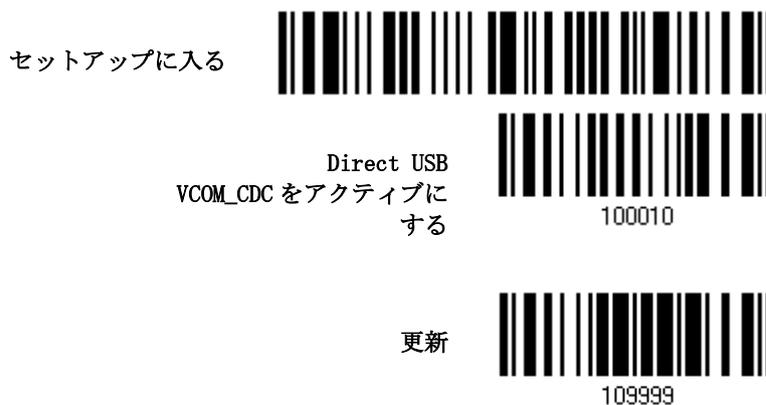


USB VIRTUAL COM を使う

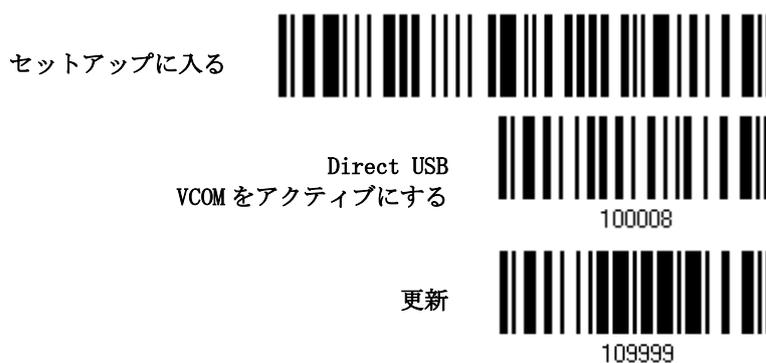
USB ケーブルでスキャナーとコンピューターを接続します。

- ▶ USB Virtual COM を初めて使う場合はドライバーを前もってインストールする必要があります。

Windows プラットフォームで、USB VCOM_CDC をダウンロードインターフェースとして使うために以下のバーコードを読み取って下さい。



Windows プラットフォームでない場合は以下のバーコードを読み込んで下さい。



以下のバーコードを読み込みスキャナーがダウンロードモードに移行します。スキャナーがビープ音で応答します。



セットアップに入る



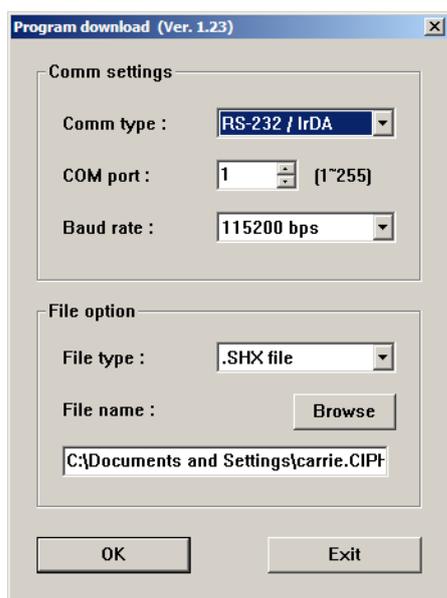
ダウンロード



109997

ダウンロードユーティリティ“ProgLoad.exe”をコンピューター上で実行します。

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K1564_V*.shx	STD1564_V*.shx



- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェイス用の「RS-232」と正しいCOMポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては 115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)] をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK] をクリックします。

カーネルをアップグレードした後、スキャナーを手動で再起動する必要があります。

ユーザープログラムをアップグレードした後、ダウンロードが正常に完了していれば、スキャナーは自動的に再起動します。

注記: 出力インターフェイスは、手順2 (= RS-232 または USB Virtual COM)で指定したように変わりません。RS-232 の場合、ボーレート設定はまだ 115200 bps のままです!



セットアップに入る

ホストシリアルコマンド

シリアルコマンド

D

目的	スキャナーを無効にします。
備考	“D”

E

目的	スキャナーを有効にします。
備考	“E”

#@ nnnnnn <CR>

目的	スキャナーを設定します。
備考	nnnnnn – 6桁のコマンドパラメータ。 例えば、「109952」は現在の Code ID 設定をリストアップします。



“0x23” + “0x40” + “0x31” + “0x30” + “0x39” + “0x39” + “0x35” + “0x32” + “0x0d”

注記: スキャナーを設定した後、シリアルコマンド「#@109999」を転送して設定を保存できます。

#@ - - - - <CR>

目的	スキャナーを停止します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x0d”

#@<CR>

目的	操作を再開します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x0d”



#@////<CR>

目的 ビープ音に応答します。

備考 “0x23” + “0x40” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x0d”

#@TRIGOFF<CR>

目的 ソフトウェアトリガーを無効にする仕方

備考 “0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x46” + “0x46” + “0x0d”

#@TRIGON<CR>

目的 ソフトウェアトリガーを有効にする仕方

備考 “0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x4e” + “0x0d”

例

HyperTerminal.exe をホストコンピュータで実行しシリアルコマンドをスキヤナーに転送します。 .

▶ スキヤナーを直ちに停止する場合 -

▶ D

▶ スキヤナーを再開する場合 -

▶ E

スキヤナーがビーパーの音量を「中」に変更して鳴らす場合 -

#@101011<CR>

#@////<CR>

スキヤナーがビーパーの音量を「小」に変更して鳴らす場合 -

#@101010<CR>

#@////<CR>

スキヤナーがビーパーの周波数を 8 kHz (Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 -

#@101001<CR>



#@/////<CR>

スキャナーがビープの長さを最長(Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 -

#@101008<CR>

#@/////<CR>

スキャナーが設定を保存する場合、シリアルコマンド「#@109999」を転送します -

#@101011<CR>

#@109999<CR>



付表3

キーボードウェッジ

“Apply” Special Keyboard									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0		F2	SP	0	@	P	`	p	・
1	INS	F3	!	1	A	Q	a	q	・
2	DLT	F4	”	2	B	R	b	r	・
3	Home	F5	#	3	C	S	c	s	・
4	End	F6	\$	4	D	T	d	t	・
5	Up	F7	%	5	E	U	e	u	・
6	Down	F8	&	6	F	V	f	v	・
7	Left	F9	'	7	G	W	g	w	・
8	BS	F10	(8	H	X	h	x	・
9	HT	F11)	9	I	Y	i	y	・
A	LF	F12	*	:	J	Z	j	z	
B	Right	ESC	+	;	K	[k	{	
C	PgUp	Exec	,	<	L	¥	l		
D	CR	CR*	-	=	M]	m	}	
E	PgDn		.	>	N	^	n	~	
F	F1		/	?	O	_	o	Dly	ENTER*

注記: (1) ・~・: キーパッドの数字 (2) CR*/ENTER*: テンキーパッドの ENTER キー



キータイプ、ステータス

キータイプ

「BT HID」、「USB HID」または「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが利用できるようになります。

*通常



109926

スキャンコード



109936

キーステータス

キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

Shift の追加



109930

左 Ctrl の追加



109931

右 Ctrl の追加



109933

左 Alt の追加



109932

右 Alt の追加



109934



例

キータイプ=通常

例えば、プリフィックスコードのように「!」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「2」と「1」については、「16進値」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

キータイプ = Scan Code(スキャンコード)

例えば、プリフィックスコードのように「a」 (= スキャンコード表の「1C」)の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Scan Code」バーコードを読み取ります。
3. 「1」と「C」については、「16進値」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

キータイプ = 通常 + キーステータス = Shift

例えば、プリフィックスコードのように「!」 (= キーボードの「Shift」 + 「1」)の文字をプログラムしたい場合::

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Shift の追加」バーコードを読み取ります。
3. 「3」と「1」については、「16進値」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

キータイプ = 通常 + キーステータス = Ctrl

例えば、プリフィックスコードのように「Ctrl+A」と「Ctrl+\$」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「左 Ctrl の追加」バーコードを読み取ります。
3. 「4」、「1」 (= 「A」)については、「16進値」バーコードを読み取ります
4. 「左 Ctrl の追加」バーコードを読み取ります。
5. 「2」、「4」 (= 「\$」)については、「16進値」バーコードを読み取ります。
6. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



付表4

N 進法

10 進法

Decimal



確認





16 進法

Hexadecimal ※ 注記:「確認」バーコードは次ページ



更新



中止





確認



セットアップに入る

ASCII TABLE

	0	1	2	3	4	5	6	7	
0		DLE	SP	0	@	P	`	p	
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q	
2	STX	DC2	”	2	B	R	b	r	
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s	
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t	
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u	
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v	
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w	
8	BS	CAN	(8	H	X	h	x	
9	HT	EM)	9	I	Y	i	y	
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z	
B	VT	ESC	+	;	K	[k	{	
C	FF	FS	,	<	L	¥	l		
D	CR	GS	-	=	M]	m	}	
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~	
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL	

更新



中止

